

平成25年度宮城県放課後子ども教室推進事業

実践事例集

～健やかな子どもを育む活力ある地域づくりのために～



文部科学省委託事業（平成23年度～）

「学びを通じた被災地の
地域コミュニティ再生支援事業」



宮城県教育委員会

はじめに

「放課後子どもプラン」が平成19年度に創設され、文部科学省の「放課後子ども教室」と厚生労働省の「放課後児童クラブ」が連携して児童の放課後対策を行うようになって7年目を迎えました。

本県の「放課後子ども教室推進事業」は、県内の小学校区において、すべての子どもを対象とし、放課後や週末等に子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画（ボランティア活動等）を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を実施することにより、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するとともに「生きる力」の育成に取り組んでいます。

本県の特徴として、異年齢集団による様々な体験活動を意図的・計画的に行うことに重点を置き、地域の方々との交流を通して学校教育とは違った視点から子どもたちの健全育成に取り組んでいます。また、地域の方々にとっても生涯学習の実践の場となり、地域づくりや地域の活性化にも大きく貢献しています。特に震災で大きな被害を受けた市町村では、家庭教育や地域の見守りなどを十分に行うことが困難な状況にあり、地域にとって重要な役割を果たしています。

「放課後子ども教室推進事業」は平成19年度から導入し、8市町23教室で実施し、平成25年度には19市町村59教室に拡充されています。平成24年1月からは、国の委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用しながら取り組んでいます。

この冊子では、各市町村における子ども教室の基本情報や活動実践を中心に、これまでの事業の成果とこれからの展望をまとめたものです。また、直接教室運営に携わっているスタッフのアンケート結果も掲載しています。これからの子どもたちの豊かな放課後活動の一助として活用していただければ幸いです。

結びに、これまで本事業の推進にご尽力いただきました各市町村並びに教育委員会、放課後子ども教室運営スタッフ、各小学校区の関係の皆様へ深く感謝を申し上げますとともに、本事業に関わるすべての方々が子どもたちから元気をもらい、笑顔で子どもたちと触れ合っていただくことを期待しています。

平成26年3月31日

宮城県教育庁生涯学習課
課長 三浦正之

目次

◇ はじめに

宮城県教育庁生涯学習課 課長 三浦正之

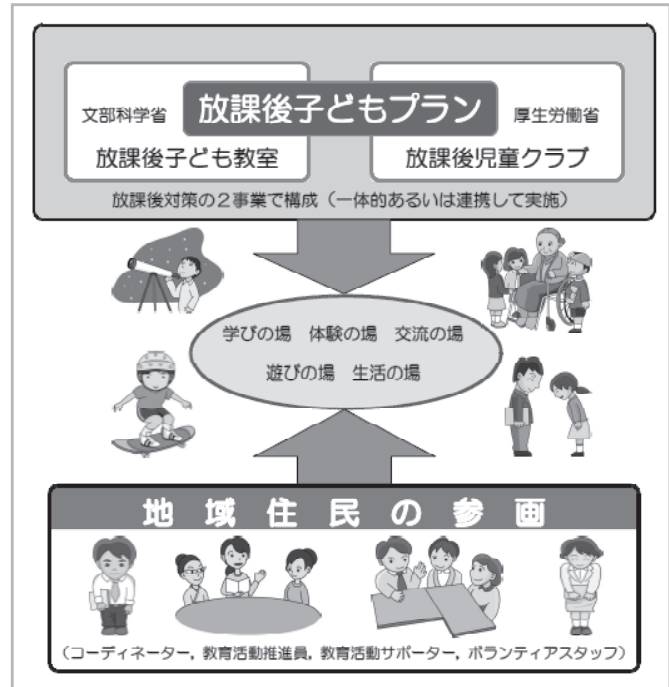
1	宮城県放課後子ども教室推進事業の概要	1
2	宮城県放課後子ども教室実践市町村一覧	2
3	市町村別放課後子ども教室実施状況	5
4	放課後子ども教室推進事業実践事例（19市町村）	
・No. 1	白石市（大河原教育事務所）	6
・No. 2	大河原町（大河原教育事務所）	8
・No. 3	丸森町（大河原教育事務所）	10
・No. 4	多賀城市（仙台教育事務所）	12
・No. 5	岩沼市（仙台教育事務所）	14
・No. 6	山元町（仙台教育事務所）	16
・No. 7	松島町（仙台教育事務所）	18
・No. 8	大和町（仙台教育事務所）	20
・No. 9	大郷町（仙台教育事務所）	22
・No. 10	富谷町（仙台教育事務所）	24
・No. 11	大衡村（仙台教育事務所）	26
・No. 12	大崎市（北部教育事務所）	28
・No. 13	色麻町（北部教育事務所）	30
・No. 14	加美町（北部教育事務所）	32
・No. 15	涌谷町（北部教育事務所）	34
・No. 16	美里町（北部教育事務所）	36
・No. 17	登米市（東部教育事務所登米地域事務所）	38
・No. 18	石巻市（東部教育事務所）	40
・No. 19	南三陸町（南三陸教育事務所）	42
5	放課後子ども教室スタッフアンケート調査結果	44
6	宮城県放課後子ども教室推進事業の成果と課題	47
7	資料編	
○	宮城県協働教育コーディネーター養成研修会	49
○	宮城県放課後子ども教室指導者等研修会	55

1 宮城県放課後子ども教室推進事業の概要

1 放課後子どもプランの推進について

「放課後子どもプラン」は、地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれるよう、文部科学省の「放課後子ども教室」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ・学童保育）」を連携して実施するものです。

「放課後子ども教室」は、小学校の余裕教室などを活用して、地域の方々の参画を得ながら、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取り組みを実施します。また、「放課後児童クラブ」は、放課後や週末等の子どもたちの適切な遊びや生活の場を確保する事業です。



2 放課後子ども教室推進事業について








(1) 事業のねらい







- ① 放課後や週末、長期休業日等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な居場所づくりを行う。
- ② 地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを行う。
- ③ 子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。

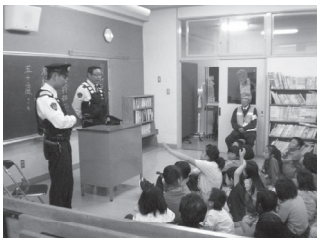




(2) 事業の内容

- ① 県事業（国の委託事業『学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業』）
 - ◇ 県内市町村への普及啓発・広報活動
 - ・ 本事業実践市町村訪問（19市町村）
 - ・ ホームページ「みやぎの協働教育・教育応援団」での情報提供
 - ◇ 普及啓発研修会等の実施
 - ・ 放課後子ども教室指導者等研修会（11月実施）
 - ・ 放課後子どもプランブロック研修会共催（6～7月実施 県内4会場）
 - ・ 放課後子どもプラン指導員等研修会共催（11月実施）
 - ・ 協働教育コーディネーター養成研修会（6・8月実施）
- ② 市町村事業（宮城県からの再委託事業）
 - ◇ 運営委員会の設置
 - ・ 事業計画の策定、安全管理方策、事業実施後の検証・評価等、教室運営方針全般
 - ・ 運営委員の選定・任命
 - ・ 定期的な運営委員会の開催
 - ◇ 放課後子ども教室の実施
 - ・ コーディネーター等スタッフの配置・養成
 - ・ 教室開催場所（余裕教室、公民館等）の設置
 - ・ 活動プログラム、規則等教室運営方針の決定
 - ・ 研修会等への積極的参加の働きかけ

2 宮城県放課後子ども教室実践市町村一覧

No.	市町村名	職年	子ども教室名	主な活動	活動の様子
1	白石市	19 19 19	越河小学校区放課後子ども教室 斎川小学校区放課後子ども教室 福岡小学校区放課後子ども教室	宿題への取組 自由遊び ニュースポーツ体験 読み聞かせ 地域発見ウォーク	
2	大河原町	21 21 21	大河原南小学校放課後子ども教室 金ヶ瀬小学校放課後子ども教室 大河原小学校放課後子ども教室 (放課後寺子屋)	宿題への取組 科学教室 ソーランヨサコイ 百人一首 伝承文化体験	
3	丸森町	19 19	うりぼうズ 筆っ子クラブ	宿題への取組 自由遊び 創作活動 読み聞かせ	
4	多賀城市	20 22 25	多賀城小学校放課後子ども教室 多賀城八幡小学校放課後子ども教室 多賀城東小学校放課後子ども教室	宿題への取組 読み聞かせ 創作活動 スポーツ活動 自由遊び	
5	岩沼市	19 19 19 20	東部のびやか教室 北部のびやか教室 南部のびやか教室 西部のびやか教室	宿題への取組 自由遊び 季節の行事 創作活動 レクリエーション	
6	山元町	19 19	みやまっこクラブ はまっこキッズ	宿題への取組 工作教室 茶道教室 ニュースポーツ体験 りんご狩り体験	
7	松島町	23 23	ひまわり学級 どんぐり学級	宿題への取組 自由遊び スポーツ活動 映画鑑賞 お誕生日会	

No.	市町村名	開設年度	子ども教室名	主な活動	活動の様子
8	大和町	19 19 19 19 25	わいわい小野っ子 わいわい吉田っ子 わいわい鶴巣っ子 わいわい落合っ子 わいわい宮床っ子	寺子屋教室 自由遊び スポーツ活動 人形劇体験・鑑賞 体験・創作活動	
9	大郷町	24	郷子舎	宿題への取組 読書活動 昔遊び体験 季節の遊び体験 自由遊び	
10	富谷町	19 19 20 20 21 21	富谷中央公民館チャレンジキッズ 富ヶ丘公民館チャレンジキッズ 日吉台公民館チャレンジキッズ 成田公民館チャレンジキッズ 東向陽台公民館チャレンジキッズ あけの平公民館チャレンジキッズ	宿題への取組 自由遊び 卓球教室 映画鑑賞 工作 囲碁教室	
11	大衡村	23	放課後子ども教室「学び楽級」	宿題への取組 調べ学習 木工教室 ちびっ子山散策	
12	大崎市	20 21 24	ひまわりっ子クラブ 松山キッズひろば あ・そ・ぼ！！ いばのっ子クラブ	宿題への取組 自由遊び 親子料理教室 紙ヒコーキ大会 地域・世代間交流	
13	色麻町	19 19	しまっ子クラブ（色麻教室） しまっ子クラブ（清水教室）	宿題への取組 計算ドリル 季節の行事 雪遊び 読み聞かせ	
14	加美町	22	賀美石地区放課後子ども教室	宿題への取組 漢字・算数ドリル 読書活動 自由遊び 工作教室	

No.	市町村名	開催年度	子ども教室名	主な活動	活動の様子
15	涌谷町	23 23 23 23	涌一子どもっこクラブ 月将館放課後子ども教室 箕小図書っこクラブ 里っこクラブ	宿題への取組 読書活動 自由遊び 科学遊び 史跡見学	
16	美里町	20 20 20 20 20 20	小牛田小ジョイキッズひろば 不動堂小ジョイキッズひろば 北浦小ジョイキッズひろば 中埴小ジョイキッズひろば 青生小ジョイキッズひろば 南郷小ジョイキッズひろば	宿題への取組 自由遊び ニュースポーツ体験 お菓子づくり教室 工作教室 いちご狩り体験	
17	登米市	21 21 21 22 22 22 23 23 23	北方小学校放課後子ども教室 登米小学校放課後子ども教室 浅水小学校放課後子ども教室 豊里小学校放課後子ども教室 米山東小学校放課後子ども教室 石越小学校放課後子ども教室 米川小学校放課後子ども教室 南方小学校放課後子ども教室 横山小学校放課後子ども教室	宿題への取組 自由遊び 工作教室 農作業体験 福祉施設との交流 映画鑑賞会 季節の行事 調理実習 読み聞かせ	
18	石巻市	25	和小っ子クラブ	自由学習 将棋・陶芸教室 自由遊び 座禅会 お菓子づくり	
19	南三陸町	25	戸倉っ子教室	国語・算数ドリル 自由遊び スポンジボールテニス テーブルボール 昔からの遊び	

3 市町村別放課後子ども教室実施状況

No.	市町村名	H.19	H.20	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
1	白石市	越河小学校区	→	→	→	→	→	→
		斎川小学校区	→	→	→	→	→	→
		福岡小学校区	→	→	→	→	→	→
		大平小学校区	→	→	→	→	→	→
2	大河原町			大河原南小学校区	→	→	→	→
				金ヶ瀬小学校区	→	→	→	→
				大河原小学校区	→	→	→	→
3	丸森町	大内小学校区	→	→	→	→	→	→
		筆甫小学校区	→	→	→	→	→	→
		館矢間小学校区	→	→	→	→	→	→
4	多賀城市		多賀城小学校区	→	→	→	→	→
				多賀城八幡小学校区	→	→	→	→
								多賀城東小学校区
5	岩沼市	玉浦小学校区	→	→	→	→	→	→
		岩沼小学校区	→	→	→	→	→	→
		岩沼南小学校区	→	→	→	→	→	→
			岩沼西小学校区	→	→	→	→	→
6	山元町	山下小・山下第一小・山下第二小学校区	→	→	→	→	→	→
		中浜小・坂元小学校区 (H.25 学校統合により坂元小学校区)	→	→	→	→	→	→
7	松島町					松島第二小学校区	→	→
						松島第五小学校区	→	→
8	大和町	小野小学校区	→	→	→	→	→	→
		吉田小学校区	→	→	→	→	→	→
		鶴巣小学校区	→	→	→	→	→	→
		落合小学校区	→	→	→	→	→	→
9	大郷町						大郷小学校区	→
								宮床小学校区
10	富谷町	富谷小学校区	→	→	→	→	→	→
		富ヶ丘小学校区	→	→	→	→	→	→
			日吉台小学校区	→	→	→	→	→
			成田小・成田東小学校区	→	→	→	→	→
11	大衡村					東向陽台小学校区	→	→
						あけの平小学校区	→	→
						大衡小学校区	→	→
12	大崎市		三本木小学校区	→	→	→	→	
			松山小学校区	→	→	→	→	
13	色麻町	色麻小学校区	→	→	→	→	→	
		清水小学校区	→	→	→	→	→	
14	加美町				賀美石小学校区	→	→	
15	涌谷町					涌谷第一小学校区	→	→
						月将館小学校区	→	→
						箕岳小学校区	→	→
						小里小学校区	→	→
16	美里町		小牛田小学校区	→	→	→	→	
			不動堂小学校区	→	→	→	→	
			北浦小学校区	→	→	→	→	
			中埴小学校区	→	→	→	→	
			青生小学校区	→	→	→	→	
			南郷小学校区	→	→	→	→	
17	登米市		北方小学校区	→	→	→	→	
			登米小学校区	→	→	→	→	
			浅水小学校区	→	→	→	→	
				豊里小学校区	→	→	→	
				米山東小学校区	→	→	→	
				石越小学校区	→	→	→	
				米川小学校区	→	→	→	
18	石巻市						和湖小学校区	
19	南三陸町						戸倉小学校区	
*	亘理町				長瀬小学校区			
*	女川町					女川第一・二小学校区		
*	気仙沼市 (H.20年まで旧本吉町)	津谷小学校区	→	→	→	→	→	
		小泉小学校区	→	→	→	→	→	
		大谷小学校区	→	→	→	→	→	
開設教室数		23	34	43	49	54	55	59

1 白石市の概要

白石市では越河，斎川，福岡小の3小学校区で放課後子ども教室を実施している。各教室年間45～50回開催しており，コーディネーターを中心としたスタッフの方々が活動内容を検討し，学校では体験できない活動を取り入れている。また，地域の方々の協力を得て，子どもたちの放課後の安心・安全な居場所を設け，子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれるための環境づくりを推進している。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	越河小学校区 放課後子ども教室 (越河小学校区)	越河小学校体育館	37名	45日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 6名	スポーツ活動 自由遊び 季節の行事	19年度
2	斎川小学校区 放課後子ども教室 (斎川小学校区)	斎川小学校体育館	34名	45日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 17名	孫太郎太鼓 ころ柿教室 キッズオリンピック 季節の行事	19年度
3	福岡小学校区 放課後子ども教室 (福岡小学校区)	福岡公民館	19名	50日	コーディネーター 3名 教育活動サポーター 11名	陶芸教室 押し花教室 餅つき 季節の行事	19年度

3 放課後子ども教室活動紹介

越河小学校区放課後子ども教室は，小学校体育館で1年生から3年生を対象に開催している。越河では，体育館での活動スペースを活かして，バドミントン，バスケットボール，長縄跳びなどのスポーツ活動を数多く取り入れている。スタッフの他に，地区の民生委員さんにご協力いただいたり，先生と一緒に遊んでくれるときもある。体育館が行事準備等で使えない場合は，スタッフと先生方が連絡を取り合い，校舎内の多目的ホールを貸していただいている。

斎川小学校区放課後子ども教室は，主に小学校体育館で全校児童を対象に開催している。斎川では，子ども教室が開設される以前から「子ども居場所づくり」を開催しており，地域の方々の協力を得てころ柿づくりや団子さしなどの伝統文化体験を数多く行っている。「1年生から6年生の児童が互いにルールを決めて，自由に遊ばせることが大事だ。」と，コーディネーターさんが子どもの活動を見守りながら話していました。教室終了後は昇降口前に集まり，帰りの会を行い集団下校で帰宅している。

福岡小学校区放課後子ども教室は，近くの福岡公民館で1，2年生を対象に開催している。福岡では，押し花教室や餅つき，陶芸教室を行っている。陶芸教室での作品は，福岡公民館の公民館まつりに毎年展示してもらっている。また，年度末にアンケート調査を行っており，「体を動かしたい」という強い要望に応え，月曜日は館内のホールで遊べるようにしている。

各教室とも，コーディネーターの方々を中心として活動プログラムを計画し，学校では体験できないプログラムを取り入れてくれている。また，学年ごとの活動ではないので，上級生と下級生とのつながりができ，自然と社会性が養われていく環境で子どもたちが育まれている。

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

子どもたちの教室での様子は、開催当初に比べると何かしら変化が見られている。初めの頃は、落ち着きがなかったり、遊び終わっても片付けに協力出来なかった児童も、今では教室に来ると何かやらなければならないか、スタッフに言われなくても進んで出来るようになった。また、決まり事を守るようになったり、街で会ったときに自然とあいさつをしてくれるのが嬉しい、とスタッフの方が教えてくれた。



(2) 学校・地域との関わり方の変容から

現在活動しているスタッフの多くは、開催当初から協力していただいている方々がほとんどである。各教室とも体験活動や伝統行事を行い、スタッフが子どもたちに様々な体験をさせてくれている。特に伝統行事では、地域の方が先生になり昔の事を教えてくれたり、公民館行事に参加して、民生委員の方や地区民の会の方と餅つきを体験している。開催して間もない頃は、プログラムの組み方やどのような行事を取り入れたら良いか迷う教室もあった。しかし今では、このような様々な体験をする上で、コーディネーターの方を中心としたスタッフが、学校と学校行事の連絡調整を図ったり、地域の方々と日程調整をしたりと連携を取ってくれている。

5 これからの教室運営の展望

「子どもたちの安心・安全な居場所」ということで開催している子ども教室。子どもたちも保護者も安心して過ごせている。これにはスタッフを始め、地域の方々、学校の協力があるからこそである。学校で開催している教室は、メイン会場である体育館が使えないと空き教室を使わせてくれたり、他の場所を提供してくれる。また、公民館で開催している教室では、走り回るようなスペースがなかったが、子ども教室の部屋の他にホールを提供してくれたり、たくさんのご理解・ご協力をいただいている。年々スタッフの固定化・高齢化の課題が出てくるが、これからは先輩方の力を借りながら、若い方々へ運営方針や学校・地域との連携の取り方を引き継いでいってほしい。



【問い合わせ先】

白石市教育委員会生涯学習課

住所：白石市字寺屋敷前25-6

TEL：(0224)22-1343 FAX：(0224)24-5377

E-mail：con-edu@city.shiroishi.miyagi.jp

1 大河原町の概要

大河原町は、宮城県南部の中央に位置しており、町の西方には蔵王連峰、周囲を低い丘陵に囲まれた楕円形の形をしています。町の中央に白石川が流れ、土手の桜並木は隣の柴田町まで続いています。今は桜で有名になった白石川の清流も、以前は金ヶ瀬で分流し、葦神橋付近で合流する暴れ川として知られていました。自然の堤防も出来て洪水の心配がなくなると、そこに集落が形成され、やがて多くの人々がこの河原に住み着くようになったと考えられています。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	大河原小学校 放課後子ども教室 「放課後寺子屋」 (大河原小学校区)	大河原小学校 少人数教室	34名	59日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 5名 教育活動サポーター 数名	学習活動 体験学習	21年度
2	大河原南小学校 放課後子ども教室 (大河原南小学校区)	南小学校 アッセンブリホール	34名	48日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 5名 ボランティアスタッフ 数名	環境学習 音楽教室 伝統文化継承学習等	21年度
3	金ヶ瀬小学校 放課後子ども教室 (金ヶ瀬小学校区)	金ヶ瀬公民館	30名	36日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 6名	天文教室 美術教室 体験学習等	21年度

3 放課後子ども教室活動紹介

①大河原小学校放課後子ども教室（通称：放課後寺子屋）…59回開催

学習活動57回，夏休み施設見学1回，体験学習（縄ない&もちつき大会）1回

②大河原南小学校放課後子ども教室…48回開催

自然体験（キャンプ，魚釣り，スキー），環境学習，工作（水ロケット，絵本，七夕，かるた作り），伝統文化継承学習（和太鼓，陶芸，茶道，もちつき），音楽（小学校での学習発表会での歌とハンドベルの発表）

③金ヶ瀬小学校放課後子ども教室…36回開催

天文教室，美術教室，七夕作り，紙飛行機大会，科学実験教室，化石をさがそう教室，夏休み施設見学，体験学習（ヨサコイソーラン（小学校祭での発表），ハンドベル（保育所クリスマス会での発表），百人一首，縄ない&もちつき大会），民謡教室（閉校式で発表）



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

毎回、子どもたちが参加するのが楽しみとなるように事業内容を様々な学習・教室を設定することにより、興味・関心が高まった。

子ども同士の交流が図られたことにより、個々のコミュニケーション能力が高まり、仲間づくりを通しての絆が深まった。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

◇協力を呼びかけた団体・関係者・役割分担

コーディネーターは、3つの小学校に一人ずつ配置し、元教員、元教育委員会職員、元小学校PTA役員の方に放課後子ども教室の事業推進を担っていただいている。

また、ボランティアは仙台大学の学生から主に学習支援をいただいております、大学に依頼をして学生の協力をいただいているものである。

学校の教職員には側面から協力をいただき、行政担当者は事業運営と調整を行っている。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

※ 町内3小学校との協力体制による事業推進。

※ 子どもの笑顔があふれる事業内容バリエーションと、学習活動による学力向上。

5 これからの教室運営の展望

コーディネーター・教育活動推進員・教育活動サポーターの方が一体となり、子どもの育成に携わることにより、地域の大人の重要性が再確認できた。

スタッフの育成・養成の必要性を感じる。

これからも継続的に事業推進が図られることが望まれる。

【問い合わせ先】

大河原町教育委員会生涯学習課

住所：柴田郡大河原町字新南19

TEL：(0224)53-2758 FAX：(0224)53-3818

E-mail：gakusyu3@town.ogawara.miyagi.jp

1 丸森町の概要

丸森町は宮城県の最南端、福島県との県境に位置している。町の大部分が丘陵地で、内約70%が山林である。町を二分するように阿武隈川が貫流しており、自然豊かな比較的温暖な農山村地域である。

町内には、縄文・弥生時代の遺跡が多くあり、戦国時代には伊達氏と相馬氏の領地争奪の舞台ともなった。幕末から明治にかけては舟運が盛んで、交通の要所でもあった。

現在、観光交流にも力を入れ、齋理屋敷・不動尊公園キャンプ場などの観光スポットや観光イベント、各直売所には、多くの観光客が訪れている。

丸森町では、「水とみどりの輝くまち 丸森」をキャッチフレーズに、「一人ひとりが『しあわせ』を実感するまち」を目指し、協働によるまちづくりを進めている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	うりぼうズ (大内小学校区)	大内小学校 うりぼうズ教室 体育館、校庭	26名	218日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 15名	宿題への取り組み 自由遊び	19年度
2	筆っ子クラブ (筆甫小学校区)	筆甫小学校 筆っ子クラブ教室 校庭	8名	171日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 3名	宿題への取り組み 自由遊び	19年度

3 放課後子ども教室活動紹介

(1) 大内小学校子ども教室「うりぼうズ」

うりぼうズは、スクールバスの待ち時間を地域の方々の協力を得ながら、安全で安心に過ごせるよう設置された教室である。

全校児童100名ほどで、校庭では毎日子ども達がサッカーや一輪車で、登録の有無に関わらず、楽しく仲良く遊んでいる。教室では、登録児童が宿題の取り組みを行ったり、折り紙やお絵かき等を行いながら過ごしている。

平成23年度から、放課後児童クラブと連携し、併設した形で運営しており、開設当時からお手伝いをいただいている、地域のボランティアさんとの交流も子ども達の成長に大きく役立っている。

(2) 筆甫小学校放課後子ども教室「筆っ子クラブ」

筆っ子クラブは、学校の下校時間から開設している。全校で16名の児童は、下校時間までは、みんな校庭で野球やサッカー、キックベースなどで楽しく遊んでおり、下校時間になると登録児童は教室に入り、宿題の取り組み等を行っている。

地域のボランティアさんは、様々にアイデアをしぼって、読み聞かせや読書活動、創作活動、昔あそびなど特技を生かして子ども達と関わっている。また、小さな学校であるため、登録の有無に係わらず、子ども達に分け隔てなく関わっておりとてもアットホームな教室となっている。

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

子どもたちは、子ども教室が自分の居場所であるとの認識が高くなっており、教室に通うのが楽しみになっているようである。

地域のボランティアさんが長く関わっていることにより、地域の一員としての生活が確立されてきているように感じられる。

子ども教室の生活の中から、挨拶や整理整頓、宿題などの学習習慣が育ってきており、子どもたちの成長がうかがえる。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

うりぼうズについては、開設について学校からの要望もあり、相互連携して開設してきた経緯がある。現在でも、情報の共有や協力体制は十分機能している。

教育活動サポーターについては、地域の高齢者の方々を中心に協力をいただいております。地域の子どもは地域で育てるという気持ちを常に持って活動している。

筆っ子クラブについては、小規模校ということからも学校との結びつきが強く、あらゆる面で協力をいただいている。

教育活動サポーターは人数は少ないが、子どもたちをわが子、わが孫のように感じながら、積極的に協力をいただいている。

どちらの教室でも「子どもはかわいい」、「子どもとふれあうのが楽しみ」という声がボランティアの方々から聞かれる。また、「卒業していった子どもから声をかけられてうれしかった」という声も聞かれ、子どもたちが地域の一員として成長してきているように感じられる。

5 これからの教室運営の展望

うりぼうズについては、放課後児童クラブと連携して開設してきたが、児童クラブ指導員、地域ボランティア、学校等の連携がスムーズに行われ、良い環境の中で子どもたちが活動できているので、今後も更に連携・協力を努めていきたい。

本町子ども教室は、子どもの居場所づくりとしてスタートしてきたが、今後、少しずつ体験的な活動を取り入れて、子どもの総合的な成長を図っていきたい。

課題として、どちらの教室も教育活動サポーターの確保があげられる。教育活動サポーターの負担軽減のためにも人員確保に努めていきたい。

【問い合わせ先】

丸森町教育委員会生涯学習課

住所：伊具郡丸森町字鳥屋120

TEL：(0224) 72-3036 FAX：(0224) 72-3043

E-mail：gakushyu@town.marumori.miyagi.jp

1 多賀城市の概要

宮城県のほぼ中央に位置し、地形は東西に長く中央部を砂押川が流れている。特別史跡多賀城跡や多賀城廃寺跡等の史跡が数多く点在する。海に近い南部の平野には工場地帯が形成され、西部地区の平野には多くの田畑が広がっている。面積は19.65平方キロメートル。人口は62,256人、世帯数は25,133世帯。(平成25年11月30日現在)

平成23年度からの第五次多賀城市総合計画の中で、次代を担う子どもたちが心身ともに健全に育つよう「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」が施策に盛り込まれている。その中の1つの取組として「放課後子ども教室推進事業」が位置づけられている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	多賀城小学校 放課後子ども教室 (多賀城小学校区)	多賀城小学校 多目的ホール 校庭	111名	85日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 14名 ボランティアスタッフ 8名	宿題、自主学習 本読み、工作 室内遊び、校庭遊び 各種イベント	20年度
2	多賀城八幡小学校 放課後子ども教室 (多賀城八幡小学校区)	多賀城八幡小学校 教育相談室 校庭	116名	110日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 1名 ボランティアスタッフ 1名	宿題、自主学習 本読み、工作 室内遊び、校庭遊び 各種イベント	22年度
3	多賀城東小学校 放課後子ども教室 (多賀城東小学校区)	多賀城東小学校 視聴覚室 校庭	74名	50日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 12名	宿題、自主学習 本読み、工作 室内遊び、校庭遊び 各種イベント	25年度

3 放課後子ども教室活動紹介

多賀城市では平成20年度に多賀城小学校、平成22年度に多賀城八幡小学校、そして平成25年度には多賀城東小学校を加えた市内3校で、放課後子ども教室を実施し、心豊かで健やかに育まれる環境づくりと安心安全な居場所づくりを推進してきた。

活動日は、月・水・金曜日の概ね週3回で、授業終了後から16時30分まで行われている。また、長期休業期間や休日にも行い、休日にはイベント(体験・交流活動)を実施してきた。

活動内容は、子どもたちの自主的な学習や遊びが中心で、年齢の異なる友だちやスタッフと一緒に宿題をしたり、室内で工作や折り紙をしたり、校庭でボール遊びをしたりと様々な活動を行う中で、物事に主体的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力が育まれている。休日のイベントでは、本年度「七夕飾りづくり」や「フラダンス」、「紙ぼっくりづくり」、「夏祭り」、「運動会」、「クリスマスオーナメントづくり」、「芋煮」、「子どもの3つの権利のワークショップ」「まが玉づくり」が行われた。3学期の終わりには、「お楽しみ会」が予定されている。子どもたちは、学校の先生や家族でもない“地域の大人たち”の見守りの中で、多くの「遊び」と「学び」の体験活動を通して「生きる力」が育まれている。

運営スタッフは「元気に明るく笑顔で」をモットーに、子どもたちの気持ちに寄り添い、共に活動しながら安全管理と居心地のよい雰囲気づくりに努めている。教室が始まる前には、スタッフ間でミーティングを開き、前回の引継ぎ事項の確認や役割分担(受付、外遊び、室内遊び等)を決めている。授業終了後、子どもたちが教室にやってくると、スタッフ一同笑顔で「お帰り!!」と出迎え、子どもたちはそれに対し「ただいま!!」と応えるのが習慣になってきている。家庭的な雰囲気を醸し出し、温かく迎えるスタッフの心遣いが感じられる。

活動の最中、子どもの様子や表情から気になる児童がいると、学校の方に連絡を取り、その様子を伝えるようにしてきた。そして、双方で共通理解を図りながら児童の指導や支援に当たってきた。



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

これまでの取組から4つの成果が上げられる。1つ目は、子どもたちの間に縦割り関係が芽生えてきたということである。この教室は全学年を対象としているので、自然と異学年での交流の場ができてくる。宿題で分からない問題があると優しくお兄さんやお姉さんが教えたり、工作や折り紙の際にも、進んで手伝ったりする姿が多く見られるようになった。校庭での遊びにおいても、進んで下級生を仲間に入れて遊ぶ姿が見られている。2つ目は、コミュニケーション能力が高まったということである。一人でいる子にはスタッフが進んで声を掛けたり、みんなで楽しむ場を意図的に提供したりすることで、子どもたちの心が解きほぐれ、スタッフや子どもたち同士自然に会話が進むようになった。保護者からは、「人見知りや激しく人と話すことが苦手だった子どもが、自分からボランティアさんに話しかけている姿を見て感動しました。」という感想をもらった。3つ目は、教室に来たら「宿題」、次に「遊び」というリズムが定着してきたということである。スタッフが何も言わずとも、子どもたちはすぐさまノートを開いて宿題に取り組み、それが終わると各々好きな遊びを楽しんでいる。4つ目は、特別支援学級の子どもの関わりについてである。子どもたちはその子に対して差別意識や偏見を持たず、一緒に仲良く活動に取り組んでいる。また、みんなと違った行動をとっても、優しく教えてあげたり見守ったりする姿が見られている。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

教室の参加児童数が年々増加してきていることから、この取組は子どもや保護者にとっては、地域に欠かせない子育て支援の取組の一つになってきており、異年齢集団の中で子どもが育つ貴重な体験の場として捉えられてきていることが窺える。保護者からは、「人との関わり方やコミュニケーション能力の育成につながる。」「勉強をみてもらえるので、とても助かる。」「家族の人数も少なく、近所も遠く感じられる中、わくわく広場が子どもの人間らしさの育成、心の成長の時間になっていると感じる。」「友達を誘って遊べなかった子どもが、わくわく広場には喜んで参加している様子でとても良かった。」という声が聞かれている。

立ち上げ当初、学校と放課後子ども教室との間には少し隔たりがあったようで、うまく連携機能が果たされていなかった。しかし、協働教育の理念の下、互いに歩み寄ることで徐々に関係性が良くなり、目的を共有しながら連携した運営ができるようになった。校長先生を始め諸先生方も進んで顔を出し、温かく声を掛けてくれることで、スタッフや子どもたちの大きな励みになっている。また、スタッフの方からも気軽に相談事を行い、学校と連携を図りながら見守りや支援ができるようになった。

5 これからの教室運営の展望

この事業は、地域全体で子どもを育てていく環境づくりが趣旨であることから、より多くの地域住民に参画してもらう必要がある。今後、全ての中学校区で学校支援地域本部事業を立ち上げる予定なので、本部事業との連携を図りながら取り組み、広報・周知活動にもより一層力を入れていきたいと考える。そして、運営スタッフの資質向上も考えていかなければならない。現在、対応が難しい子どもとの接し方に苦慮している運営スタッフが多いことから、適宜必要な研修を課してスキルアップを図っていく必要がある。それと、子どもたちの様子でも気になるところがある。学校での姿と家庭や地域で姿は全く違うということを懇談会等でよく耳にするが、現在の放課後子ども教室でも同じことが言える。立ち上げ当初は規律を守って素直に行動していたが、現在は運営スタッフと馴れ合いになり、子どもたちの言動が乱れてきている。一度、子どもたち同士で話し合いの場を設け、集団としてのあり方を考えさせることが必要と思った。学校とも連携を取り、学校以外でも規範的意識を持って行動できるような子どもに育てていければと考える。

放課後子ども教室は、今後、市内全ての小学校で実施する予定にある。定期的に運営スタッフ同士の会議を行い、これまでの取組を紹介したり抱えている悩み事を相談したりするなどして、連携を図りながら横のつながりも大切にしていきたいと考える。また、学区の枠を外し、運営スタッフが互いの学校に行き来し、いつでも支援できる体制を整えていきたいと考える。そうすることで、学校ごと運営スタッフの考えや取組に広がりを持って、安定した運営が実現され、子どもたちにとってよりよい教室になると確信している。

【問い合わせ先】

多賀城市教育委員会生涯学習課社会教育係

住所：多賀城市中央二丁目1-1

TEL：(022)368-1141 FAX：(022)309-2460

E-mail：gakusyu@city.tagajo.miyagi.jp

1 岩沼市の概要

宮城県の中央部、仙台市の南 17.6 km に位置し、市域は東西約 13 km、南北約 10 km、総面積 60.71 k m² を有する。東北本線と常磐線の分岐点、国道 4 号線と 6 号線の合流点であり、さらに東北地方の国際化の玄関口となる仙台空港が所在するなど、交通の要衝である。また、震災復興に関しては、平成 23 年度から 7 年間の具体的な取組内容をまとめた「岩沼市震災復興計画マスタープラン」を実行し、復興に向けた取組と、さらなる発展を目指している。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	東部のびやか教室 (玉浦小学校区)	玉浦小学校 少人数教室 など	31名	※27日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 5名 教育活動サポーター 19名	宿題、自由遊び 読み聞かせ、お茶会 木工教室、など	19年度
2	西部のびやか教室 (岩沼西小学校区)	岩沼西小学校 図工室 など	48名	※23日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 7名 教育活動サポーター 18名	宿題、自由遊び チェロコンサート、お茶会 しゃぼん玉遊び、など	20年度
3	南部のびやか教室 (岩沼南小学校区)	岩沼南小学校 視聴覚室 など	39名	※23日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 8名 教育活動サポーター 30名	宿題、自由遊び 読み聞かせ、お茶会 食育、クリスマス会、など	19年度
4	北部のびやか教室 (岩沼小学校区)	岩沼小学校 プレハブ教室	40名	※22日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 4名 教育活動サポーター 27名	宿題、自由遊び 読み聞かせ、お茶会 食育、など	19年度

※合同教室 2 回を含む

3 放課後子ども教室活動紹介

平成 19 年度から本事業を実施しており、7 年目を迎えた今年度も岩沼市内すべての小学校で「のびやか教室」を開校することができた。のびやか教室は「岩沼市子ども居場所づくり運営委員会」が運営している。年に 3 回開催され、各教室の内容だけでなく、ボランティアの増員や児童の安全管理など、その時の問題について話し合われている。各小学校の教頭先生が運営委員になっているため、大震災の時の避難、不審者の対応、集団下校の仕方、保護者への周知方法等を学校側と共通理解することができ、より安全な教室運営ができています。また、学校の児童管理から外れる事業だが、保健室を利用させてもらったり養護教諭が教室の様子を見に来ていただいたりなど、学校側から多大な協力をいただきながら開催することができています。

各教室に 1 名いるコーディネーターが中心となって、ボランティアの特技を生かしたユニークな活動を行っている。毎月行われるコーディネーター会議の中で、どのような特技をもったボランティアがいるか、その特技を生かした活動プログラムをしてみても子どもたちの反応はどうだったかを情報交換し、ほかの教室でもそのボランティアが外向いて活躍できるようにしている。子どもが楽しんで活動したプログラムには「木工教室」「お茶会」「チェロコンサート」「食育」などがある。「木工教室」は最初東部のびやか教室だけで行っていたが、子どもたちが時間を忘れて活動していたので、ボランティアに協力していただき、他の 3 教室でも行ってもらった。どの教室でも盛況で、子どもから「こんどはいつやるの?」とやり足りない様子だった。

通常の教室以外に 4 つの教室が集まって行う合同教室を年に 2 回開催している。1 回目は夏ごろに行い、スポーツなどの体を動かす活動を行っている。今年度はグラウンド・ゴルフを楽しんだ。2 回目は年末に親子でしめなわ作りの体験学習を行っている。親の世代もしめ縄を作ったことがないので、親子一緒に学習するすばらしい機会となっている。



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

毎年メンバーが変わり、その年によって子どもたちの様子は違っている。今年度は元気のいい子どもが多い。しかし、コーディネーターを中心としたボランティアの方々の指導によって、ルールを守った行動や話を聞く態度が身につけてきている。異学年が一つの教室にいたので、上下関係を学ぶ機会が多い。そのため上級生は下級生に呼びかけて一緒に遊んだり折り紙の折り方など上級生がもつ知識を下級生に伝えたりとリーダーとしての力を身に付けている。特に西部のびやか教室は岩沼西小学校で縦割り活動に取り組んでおり、上学年にとってはその実践の場となっている。異学年との交流の場だけでなく、大きく年の離れた方（ボランティア）との交流の場としても大きな意味があった。現代では核家族が増え、祖父母から学ぶことが難しくなり、昔からの知恵などが途絶えつつある。祖父母と同じくらいの年齢のボランティアの方に遊びなどを通して、昔から伝わる知恵などを学ぶすばらしい機会となっている。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

開設当初から学校の教室を会場にしているが、学校外活動の一つということもあり学校との関わりが少なかった。そのため教職員からの理解を得るのが非常に難しく、協力体制も万全とは言えなかった。しかし、現在では多くの教職員からの理解を得ることができ、数多くの協力をいただいている。特に子どもの安全面に関しては、保健室の使用を許可していただいたり養護教諭がけがの手当てを手伝っていただいたりボランティアでは対応が難しい対応をフォローして下さっている。また、活動教室以外の教室もその時間に空いていれば貸してもらえらる。突然のお願いに対しても快く対応してもらえている。

市内の社会教育団体や読み聞かせボランティアなど、地域で活躍している方々に活動プログラムをお願いしている。それだけでなくコーディネーターが地域にいる様々な特技をもった方を探して、活動プログラムとして実施できるように努力してくれている。地域の方々が中心となって本事業が実施されている。

5 これからの教室運営の展望

大きな課題としてボランティアの高齢化と男性ボランティアの減少が挙げられる。現在ボランティアの方は60歳代が中心となっている。「夏場はよいのだが、12月からの外遊びは厳しい」というボランティアからの声が聞かれる。冬場は室内を60歳代以上の方が、外を50歳代以下の方が、それぞれ中心となって子どもたちと遊ぶのが理想だと考える。そのためには公民館などの社会教育施設や子ども福祉課などの関係する課と協力をして、ボランティア募集に力を入れていきたい。また、若いボランティアを集めるために、大学のボランティアサークルへの呼びかけも行っていきたい。男性ボランティアの募集については、子育て支援センターと岩沼市教育委員会生涯学習課の共催で、男性ボランティア育成を目的とした講習を行った。その実践の場として、南部のびやか教室でバルーンアートをしていただき、今後の放課後子ども教室でのボランティア活動もお願いしている。この一連の取組を次年度も継続して行い、男性ボランティアの数を増やしたい。

ボランティアからは「もっと学校の先生方に参加してもらいたい」という声も聞かれる。お茶会が行われるときは職員室に呼びかけるなどしているが、忙しい先生方にとっては時間が取れず、放課後子ども教室に対しての敷居も高い様である。運営委員である教頭先生に協力いただき、放課後子ども教室に顔を出しても良い雰囲気を学校内に作っていただいたり、参加児童に招待状を作らせたりして、先生方が参加しやすいようにしたい。そして、放課後子ども教室を先生方とボランティアの方との交流の場にしていきたい。

【問い合わせ先】

岩沼市教育委員会生涯学習課

住所：岩沼市桜一丁目6番20号

TEL：(0223)22-1111 (内線572) FAX：(0223)24-0897

E-mail：kyouiku@city.iwanuma.miyagi.jp

1 山元町の概要

山元町は仙台市中心部より約35キロの宮城県最東南端に位置しており、福島県との県境にある。町の主な産業は水稻を中心とした農業であるが、果樹（いちご，りんご），畜産，漁業（ホッキ，鮭）と多彩である。東日本大震災では町の約半分の地域が津波の被害を受け，600名を超える多くの方々の尊い命が失われた。教育施設のうち被災を受けた中浜小学校は平成25年3月31日をもって閉校となり，坂元小学校に統合された。また，山下第二小学校は山下小学校に併設となり，運営している状況にある。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	みやまっこクラブ (山下小学校区) (山下第一小学校区) (山下第二小学校区)	山下第一小学校	25人	40日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 2名 教育活動サポーター 8名 ボランティアスタッフ 1名	自主学習，自由遊び 工作，体験学習，など (毎週：月曜日)	19年度
2	はまっこキッズ (坂元小学校区)	坂元小学校	45人	40日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 2名 教育活動サポーター 8名 ボランティアスタッフ 4名	自主学習，自由遊び 工作，体験学習，など (毎週：金曜日)	19年度

3 放課後子ども教室活動紹介（みやまっこクラブ，はまっこキッズ）

(1) みやまっこクラブ（登録児童25名）

みやまっこクラブは山下第一小学校の活動教室をお借りし，週1回月曜日の放課後の時間に活動している。本年度は25名の児童が登録しており，上級生が下級生の面倒を見ながら，スタッフの方々と一緒に楽しく活動している。活動内容については，2ヶ月に一度のスタッフ会議の中で話し合いを行い，月毎に計画を立てている。体育館での自由遊び，粘土細工やプラ板などの工作，夏休みを利用した親子料理教室，七夕やクリスマスコンサートなど，季節の行事も行っている。また，茶道教室の先生方を講師に茶道体験を行ったり，農家事業主さんの協力をいただき山元町の特産品の一つであるりんご狩り体験を行うなど，スタッフの方々に限らず，地域の方々との交流を通して様々な体験学習の機会を設けている。

(2) はまっこキッズ（登録児童45名）

はまっこキッズは，週1回金曜日の放課後の時間に活動をしている。1・2年生の登録児童が多く，とても元気に，にぎやかに活動が行われている。震災により，小学校では体育館の建て替え工事が行われているため，活動場所や内容が制限されており，現在は小学校の他に坂元公民館の会議室などをお借りして活動を行っている。昔遊びやニュースポーツ，調理実習などの活動や学校周辺の散策や，りんご狩り体験など地域の特性を活かした活動も例年行っている。また，七夕飾り，クリスマスリース，ひな人形づくりなど季節の行事にあわせた工作も行っており，子どもたちは創意工夫を活かし，楽しく活動に取り組む様子が見られている。活動の運営については，2ヶ月に一度の会議の中で内容や進行の担当を分担し，必要に応じて活動前に早めにスタッフが集まり，準備物の用意や活動内容の確認をするようにしている。

山下地区及び坂元地区のそれぞれの児童を対象に，以上の2つの放課後子ども教室を開設しているが，年に数回，それぞれの教室のスタッフが一堂に会し，活動内容等についての情報交換をし，互いの教室運営に活かしている。

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

放課後子ども教室での活動の様子について家庭で話をする児童が多く、家庭から楽しく参加している旨の話を受けることが多い。家庭ではなかなか体験できない活動ができること、異学年等の幅広い友人やスタッフとの交流ができることなど、とても貴重な経験になっているという話をいただく機会が多い。

年間をとおして活動をしていく中で、スタッフの方々からは新年度開始当時よりも、講師の先生やスタッフの方々に対する挨拶等の礼儀や話を聞く際のマナーの向上、活動後に協力して片付けを行う姿が見られるようになってきていること、上級生の子どもたちが下級生の面倒をよく見るようになってきている等の声が聞かれる。本町の放課後子ども教室は週1回と活動回数が少ないものの、様々な年齢の友人、放課後子ども教室スタッフや講師など、地域住民との交流を通じた学習は子どもたちにとってたいへん貴重な経験となっていると考える。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

学校の教室を借りて活動しているため、活動に関わる連絡や活動場所等の調整をはじめとし、必要に応じて放課後子ども教室参加児童に関わる情報交換をするなど学校から多方面にわたり協力をいただいている。また、先生方に活動に参加していただくたり、子どもたちの様子を見にきていただくなどの機会もある。

各教室では様々な体験活動を企画することで、スタッフの方々に限らず、地域の方々にも放課後子ども教室の活動に様々な形でご協力をいただいております。子どもたちと地域住民との交流の機会が増えてきている。また、放課後子ども教室にご協力いただいている方々が別な形で学校教育の支援に関わることもあり、協働による教育の推進につながっている一面もある。

5 これからの教室運営の展望

震災の影響によりスタッフの方々を取り巻く環境が大きく変化してきており、スタッフの増員が課題の一つになっている。現在のスタッフの方々に加え、特に子育て中の世代の方や男性に加入していただくことにより活動内容の幅を広げ、活動にメリハリを付けることで、より充実した活動につなげていきたいと考えている。

二つ目は、教室の運営方法の工夫である。現在、登録児童の中で多くを占めているのが低学年となっている。マナー等も含めた活動全般において、上学年の児童が中・下学年の児童をリードできる存在になるよう活動の中で育て、子どもたちと共に放課後子ども教室を作り上げていくようにしていきたい。

りんご狩りや茶道教室など、地域の方々のご協力をいただくことで充実した活動につながっており、子どもたちにとって地域のことや専門的なことを学ぶ良い機会となっている。また、地域の方々との世代間交流を通して、多くのことを学ぶことができるとともに、地域の方々にとっても普段あまり関わりを持たない地域の子どもたちとの関わりを増やす機会でもある。今後も、活動内容の充実に努めると共に、より多くの地域の方々に教室運営に関わっていただけるよう働きかけ、地域との関わりがさらに深くなるよう教室を運営できればと考える。

【問い合わせ先】

山元町教育委員会生涯学習課

住所：亶理郡山元町浅生原字日向12-1

TEL：(0223)37-5116

FAX：(0223)37-0119

E-mail：seigaku@town.yamamoto.miyagi.jp

1 松島町の概要

松島町は宮城県中央部松島湾奥部に位置し、特別名勝日本三景の一つとして、歴史・文化や豊かな自然に囲まれた風光明媚な人口約1万5千の町です。

町内には小学校3校と中学校1校、町立の幼稚園3園、保育所4所があり、子どもたちを育てる環境づくりにも力を入れており、放課後子ども教室は、松島第二小学校区と松島第五小学校区に開設、長期休業日と土曜日を含め年間をとおして開設しています。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	ひまわり学級 (松島第二小学校区)	松島第二小学校	19名	249日	安全指導員 2名	宿題への取り組み 自由遊び	23年度
2	どんぐり学級 (松島第五小学校区)	品井沼 農村環境改善センター	12名	249日	教育活動推進員 2名	宿題への取り組み 自由遊び	23年度

3 放課後子ども教室活動紹介（松島第二小学校学区放課後子ども教室）

松島第二小学校学区放課後子ども教室は、平成25年度の登録児童は19名と少ないですが、小学校1年生から3年生を中心に、子どもたちが毎日元気よく安全指導員の先生方と放課後の時間を楽しく過ごしています。秋に学区内で開催されるひまわり祭りから名前をとって、「ひまわり学級」という名前で呼んでいます。

活動は、宿題や課題についての学習活動と自由遊びが中心になりますが、毎月2～3回体験活動やその他の学習活動、イベント及び地域のボランティアの方による本の読み聞かせ会等を行っています。毎月のお誕生会をはじめ、節分、ひな祭り、こどもの日のイベント、七夕の会や外国語指導助手（ALT）の先生との交流、ハロウィンやクリスマス行事はみんな楽しみにしている行事です。ドッジボール等の軽スポーツや敬老の日や勤労感謝の日に向けた感謝のイベント、定期的な避難訓練も行っています。

人数が少ないなかで、みんな仲良く、先生方とも和気相合に活動しているひまわり学級の子どもたちですが、松島第二小学校の学区は町面積の7割を占める位とても広く、スクールバスで通学する児童も少なくありません。異学年交流に加え、地域間の交流にも自然と繋がっているように思います。

松島町では、松島第二小学校学区（児童数158名）と松島第五小学校学区（児童数87名）の2ヶ所で放課後子ども教室を開設しています。どちらも年間を通じて開設しており、開設時間も14時頃から19時までと、家庭の事情や保護者の希望に添って対応しています。



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

松島第二小学校学区放課後子ども教室（ひまわり学級）の開設場所は小学校の空き教室を利用しています。幼稚園、保育所が敷地内に隣接していることから、幼児期から長い期間にわたり子どもたちを見守っていくことができる環境下であり、教室運営に携わる指導員として子どもたちが成長していく様子がよく分かります。このことは、子どもたちへの個々の対応に対し大きなメリットになっています。

運営に携わる立場として、子どもたちの変容について感じたことについては以下のとおりです。

- ◇ 1年生に関しては、併設する幼稚園、保育所の園児に対し、お兄さん・お姉さんになったことをアピールするなど、行動が急に立派になる。
- ◇ 異学年や障がいのある子といっしょに生活する中、思いやりや優しさがその行動や言動に表れるようになった。
- ◇ 生活する中で、基本的なルール（しつけ）をほとんどの子が身につけていく。
- ◇ 上級生の行動をよく見るようになり、みんなの前で考えを言えるようになった。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

幼稚園や保育所が併設された小学校施設利用の教室環境は、この教室ならではの特徴が見られるように思います。特に学校との連携は運営するうえにおいて大きな力となっています。学校・地域との関わり方の変容については以下のとおりです。

- ◇ 児童の情報や流行している疾病等、学校での子どもたちの身体状況などの様子を聞ける等、学校との連携と信頼関係が強くなった。
- ◇ 災害時の幼稚園、保育所、学校と連携した対応が図れるようになった。
- ◇ 小学校・幼稚園・保育所との定期的な情報交換により、学校の動きや行事の確認ができることにより、子どもたちとの会話に活かせるようになった。
- ◇ 小学校施設や備品の借用ができることで、学習活動の幅が広がった。
- ◇ ボランティアの方々の協力は、地域交流活動にも活かされてきている。

5 これからの教室運営の展望

2教室とも小学校や公共の施設を借りて運営しており、教室運営に必要な空間が確保できず、また施設の利用にもどうしても制限がともないます。個人情報保護の観点からも指導員の事務室はもちろん、体調を崩した子どもたちのための休養スペースも確保したいところです。

教室の運営自体は、開設時間を含めて保護者からは良好な評価を得ているところですが、施設環境整備は財政的な面で厳しい中、当面、可能な範囲で対応していかなければならないと考えています。

平成26年度において、児童館の建設が予定されており、その運営方針や運用面において検討を始めているところです。教育部局と福祉部局との協議となりますが、子どもたちの安心・安全な利用に向けた施設運営が求められることから、保護者等のご意見をいただきながら対応していかなければなりません。

松島を大切に、豊かな心をもったやさしく、たくましい子どもたちを育てる一助となるよう、今後も教室運営の推進に努めたいと考えています。

【問い合わせ先】

松島町教育委員会教育課 生涯学習班

住所：宮城郡松島町高城字婦命院下一19番地の1

TEL：(022)354-5714 FAX：(022)354-3140

E-mail：kyouiku@town.matsushima.miyagi.jp

1 大和町の概要

大和町は、七ツ森や船形連峰、吉田川、田園風景等の豊かな自然と緑に恵まれたまちである。

近年は、大企業の進出に伴う就業機会の拡大や地域産業の波及効果、立地企業で働く従業員その家族の転入による人口増加等、さらなる町政発展が見込まれている。

「町内全ての地域で、子どもから高齢者にわたるあらゆる世代・人が、そして、これから大和町に移り住む人たちも・・・みんなが誇りと愛着を持って住み続けられるまちの実現」を目指し、まちづくりをしている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	わいわい小野っ子 (小野小学校区)	小野小学校	163名	26日	コーディネーター 2名 教育活動サポーター 9名	自由遊び	19年度
2	わいわい吉田っ子 (吉田小学校区)	吉田教育ふれあいセンター	41名	25日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 2名	自由遊び	19年度
3	わいわい鶴巣っ子 (鶴巣小学校区)	鶴巣教育ふれあいセンター	47名	35日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 3名	自由遊び	19年度
4	わいわい落合っ子 (落合小学校区)	落合教育ふれあいセンター	34名	35日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 3名	自由遊び	19年度
5	わいわい宮床っ子 (宮床小学校区)	宮床小学校	35名	21日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 2名	自由遊び	25年度

3 放課後子ども教室活動紹介

大和町放課後子ども教室「わいわい」は、平成19年度に4教室開設し、平成25年度に1教室を加え、現在5教室開設し、週に1回(祝日や長期休業中は除く)活動している。

安全で安心な居場所を設け、異年齢集団の中で交流することにより、自主性や協調性を育てること、また、子どもたちの活動を地域の方々に支え、地域の教育力の活性化を図ることを目的として実施している。

子どもたちが「楽しかった」「やって良かった」と思える活動となるように、月に1回、各教室のコーディネーターが集まり、アイデアを出し合って活動内容を決定し、当日は、コーディネーターが活動を進行、活動の補助や見守りを地域の方々が教育活動サポーター(活動スタッフ)として活動している。教室によっては、児童館職員や生涯学習課職員が加わる。児童は登録制で、一度登録をすれば自由に参加することができるものとしている。

平成25年度の活動は、地域の方々との「グラウンドゴルフ交流」、消防署員による「防災教室」、本町を拠点に活動中の人形劇サークルによる「人形劇ワークショップ」、本町に工場のある企業による「食育講座」など、地元の方々の協力を得て活動している。また、季節に合わせて、七夕飾り、クリスマスリース、お正月飾りや年賀状、鬼のお面などの工作をしたり、ほかに、「体操教室」や「陶芸教室」、「寺子屋教室」など、幅広い活動をしている。また、「自由遊び」の日も設けており、ドミノやカプラ、キックベースやドッジボール、オセロや将棋、ドッジビーやユニホックなど子どもたちが自分たちで考えて活動する日もある。

子どもたちにとって、学校とは違った空間で、さまざまな活動ができ、放課後の楽しみのひとつとなっている。

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

放課後子ども教室の特色である異年齢集団の中での活動を重ねていくうちに、同学年同士とのつながりを深めていくことはもちろん、高学年の子が低学年の子へ教えてあげたり、譲ってあげたり、励ましてあげたり、助けてあげたりしている姿から、異学年間とのつながりも深まっているようであり、子どもたちの思いやりの心や協調性が育まれている。

また、初めの時期に何度も見たスタッフの怖い顔や、何度も聞いたスタッフの叱り声も、今では懐かしいこととなり、子どもたちはきちんと約束ごとを守りながら、のびのびと活動するようになったので、自律性も育っている。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

核家族化や、地域コミュニティの弱体化などにより、地域社会への関わりが希薄化している近年において、地域の方々や学校の先生方が、地域の子どもたちを見守り、育てていくことを念頭に置いて活動を支援してもらっていることは、とても心強いことである。

子どもたちは、初めは遠慮気味であったが、今では地域の方々と一緒に活動することを通して、家庭以外の心の拠り所を見だし、安心して活動しているようである。

また、学校の先生方が活動を見に来てくれることもあり、地域全体で子どもたちを見守っていると感ずることができている。子どもたちにとって良い環境で活動が展開できるよう、より一層結束していきたい。

5 これからの教室運営の展望

大和町放課後子ども教室では、地域の方々の協力を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ、文化活動や地域住民との交流活動などさまざまな活動に取り組んでいる。

放課後は、子どもたちにとって自由に過ごせる貴重な時間ではあるが、家庭に籠もるのではなく、今後はさらに、学校や家庭ではすることのできない体験活動などを充実させ、子どもたちの豊かな心を育てていきたい。

また、地域の方々や教育活動サポーター（活動スタッフ）として活動を支援してくれているが、スタッフ要員の増員やスタッフのより一層の意識高揚を図り、地域の主体性を持って大和町放課後子ども教室が運営されていくことを目指したい。

大和町放課後子ども教室は、地域の方々や学校の先生方の協力や参加のおかげで開催することができており、とても頼もしい存在だと感じる。特に普段あまり関わる機会の少ない地域の方々との交流は子どもたちにとって、貴重であり社会性を身につけることにもつながっている。

今後も地域に密着した活動を展開していき、地域ぐるみで、各地域らしい放課後子ども教室を築いていきたい。



【枯葉で遊ぼう】



【からだを動かそう】

【問い合わせ先】

大和町教育委員会生涯学習課

住所：黒川郡大和町吉岡字西検木1番地の1

TEL：(022)345-7508 FAX：(022)344-3755

E-mail：syakyo@town.taiwa.miyagi.jp

1 大郷町の概要

大郷町は宮城県のほぼ中央に位置し、東は大崎市鹿島台・松島町、西は大和町・大衡村、南は利府町、北は大崎市三本木・大崎市松山に接しており、仙台市からは直線で北東約21kmの距離にある。地勢は一部を除きそれぞれ丘陵によって他の町村と接し、東西9.95km、南北82.02kmの地形をなし、船形山に源を発する吉田川が中央を流れ、その流域に整然と区画整理された耕地がある。昭和29年7月1日、旧大谷・粕川・大松沢の3村が合併し大郷村となり、昭和34年4月1日町制を施行した。総人口は8,712人（平成25年12月末現在）。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	郷子舎 (大郷小学校区)	旧大谷幼稚園園舎	66名	57日	コーディネーター 7名 教育活動推進員 3名	宿題への取り組み 読書、自主学習 自由遊び、昔遊び等	24年度

3 放課後子ども教室活動紹介


大郷町の放課後子ども教室は、平成24年度に町内4つの小学校が1つに統合し、大郷小学校として開校したことに伴い、大郷小学校に隣接する旧大谷幼稚園園舎を利用して開催しております。放課後子ども教室の名称は、江戸時代の寺子屋をイメージし「郷子舎（さとこや）」と名付けられています。同施設内には児童クラブもあり、共催で歌のコンサート等も開催している。活動は、学校が休業日以外の毎週火・木曜日の午後2時30分から4時30分まで開催している。活動内容は宿題への取り組みが中心で、宿題が終わった児童から読書、自由遊びやスタッフと一緒に折り紙やけん玉等の昔遊びに取り組んでいます。

運営は児童の保護者を中心に10名のスタッフがあり、有資格者3名が教育活動推進員として児童の宿題等の学習サポートをしています。学習した宿題やプリントには「郷子舎で学習しました」と記載されたオリジナルスタンプを押しており、児童たちは「宿題終わったからスタンプ押して！」と答えをチェックしてもらい、スタンプを押してもらうと喜んで遊戯室に遊びに行き、スタッフの見守る中、自由に遊んで過ごしています。

スタッフを中心に定期的に「郷子舎だより」を発行しており、放課後子ども教室での児童の様子や連絡事項等を保護者にお知らせしています。


さとこや
郷子舎だより

日25.12.19(木)

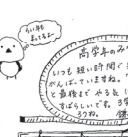


寒気の候、日だまりの暖かさがひたすら感じられるこのごろです。郷子舎も2学期は今日で終わりとなりました。子ども達からパワーをもらって私たちスタッフも楽しく活動することができました。今までのご協力ありがとうございました。

今回は郷子舎スタッフから頑張った子ども達へのメッセージです！



いつもけん玉
しゅんはむかひもけん玉だ
しゅんはむかひもけん玉だ
けん玉はけん玉のけん玉だ
けん玉はけん玉のけん玉だ
けん玉はけん玉のけん玉だ



高学年のみんな
12月強い時間が来た
みんなは頑張りました。この日は
12月強い時間が来た。この日は
12月強い時間が来た。この日は

3学期の郷子舎開校日のお知らせです！

1月(7回)	2月(7回)
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4	1
5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8
12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15
19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22
26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28

※が付いている日が開校日です！



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

郷子舎での子どもたちの様子について、運営スタッフからは「以前より宿題に対して前向きに、集中して取り組み、最後まで粘って終わらせようとする児童が増えてきている。」「学年が進むにつれて、入室したらまず宿題を済ませて、遊戯室に移動して過ごすというパターンが定着しており、低学年の児童たちが、このパターンに慣れるまでは一人ひとり時間を要しますが、ていねいに対応することによりクリア出来て来たように思う。」等の意見が聞かれ、学習に取り組むまで時間がかかっていた児童も、他の児童たちの様子を見て徐々に変化を見せ、学習に取り組む姿が見られるようになってきている。



保護者からも家庭での様子として、「郷子舎がない日でも家に帰って来ると、宿題を自ら進んで取り組む姿が見られました。」等の声があり、郷子舎での取り組みが、設置の目的でもあった家庭学習の定着に少しずつ、つながってきているのではと感じています。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

放課後子ども教室がスタートしたばかりの時は、学校との連携がぎこちなく、お互いの思いにズレが見られましたが、運営スタッフと協議し、積極的に意見や要望を伝えることにより運営が軌道に乗って来ているように思います。



地域との関わりについては、運営スタッフや協力員からは、「普段でも、道などで児童たちと会った時に児童からあいさつをしてくれて、一緒にいらした家族の皆さんと会話する機会が多くなりました。」等の意見が聞かれ、児童を通じた交流の機会が増えてきている様です。また、保護者からは、「子どもを迎えに行った際に、普段は話す機会のない他の地区や他の学年の保護者とも顔見知りになり、情報交換する機会が増えた。」との話もあり、保護者同士のコミュニティ形成の一助となっているのではと思います。

5 これからの教室運営の展望

開設して2年目となり、課題や改善点とともに、今後やってみたいこと等、今後の事業展開についても運営スタッフの打合せ会で活発に話し合われるようになってきました。スタッフの人材確保、児童の下校時間やスクールバス運行との関わり等、まだまだ課題があり、手探りの状況ですが、出来ることから少しずつ積み重ね、子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

【問い合わせ先】

大郷町教育委員会教育課（社会教育係）

住所：黒川郡大郷町中村字屋舗65-2

TEL：(022)359-2982

FAX：(022)359-4537

E-mail：kaiyo@town.miyagi-osato.lg.jp

1 富谷町の概要

富谷町は、平成26年1月1日現在で人口5万1千人を超え、小学校7校、児童数4千2百人、中学校5校、生徒数2千人の児童生徒数計6千人を超えており、人口に対する児童生徒数の割合が多く、全国的にも若い町となっている。

町の教育方針のスローガンに「学びのまち富谷」を掲げ、地区毎に6つの公民館施設で各々放課後子ども教室と放課後児童クラブを実施するとともに、前年度より各公民館図書室をネットワークで結んだ図書システムの導入や図書集配業務の実施など、すべての人々が豊かに学ぶことができる生涯学習環境を整えている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	富谷中央公民館 チャレンジキッズ (富谷小学校区)	富谷中央公民館	参加申込制	50日 以上	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 2名	学習やスポーツ ゲーム、自由遊び 製作等	19年度
2	富ヶ丘公民館 チャレンジキッズ (富ヶ丘小学校区)	富ヶ丘公民館	参加申込制	50日 以上	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 2名	学習やスポーツ ゲーム、自由遊び 製作等	19年度
3	東向陽台公民館 チャレンジキッズ (東向陽台小学校区)	東向陽台公民館	参加申込制	50日 以上	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 2名	学習やスポーツ ゲーム、自由遊び 製作等	21年度
4	あけの平公民館 チャレンジキッズ (あけの平小学校区)	あけの平公民館	参加申込制	50日 以上	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 2名	学習やスポーツ ゲーム、自由遊び 製作等	21年度
5	日吉台公民館 チャレンジキッズ (日吉台小学校区)	日吉台公民館	参加申込制	50日 以上	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 2名	学習やスポーツ ゲーム、自由遊び 製作等	20年度
6	成田公民館 チャレンジキッズ (成田東・成田小学校区)	成田公民館	参加申込制	50日 以上	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 2名	学習やスポーツ ゲーム、自由遊び 製作等	20年度

3 放課後子ども教室活動紹介（日吉台公民館チャレンジキッズ）

「日吉台公民館チャレンジキッズ」は、町内他の公民館も同様で、小学生の放課後対策として公民館で実施している放課後児童クラブと一体的に実施し、児童が興味や関心を持って取り組むことのできるような活動内容を工夫することにより、児童の参加が増えた。

主な活動場所は、世代間交流室や大ホール、公民館前の公園などを活用して実施しており、活動時間は、月曜日から金曜日の放課後から午後5時までで（冬期間は午後4時30分まで）、長期休業中も週1回から2回ほど開催している。

今年度は、異年齢の子ども達がともに楽しみながら学び、普段経験できないような体験や交流、学習活動を通じ、多くの児童が様々な事に興味や関心を持ち、学んでもらうことを目的とした活動に力を入れて取り組んだ。

その中でも夏季休業中のイベントとして、氷の性質や温度の変化について、実験やクイズで学び、温度が下がる原理を利用した遊びを取り入れながら、家庭にある身近な材料で誰でも簡単に作れる「実験・モミ！フリ！アイス作り！！」を行った。

一つの事業の中で「学ぶ」・「遊ぶ」・「食べる」の相乗効果により、普段より多くの児童の申し込みがあり、参加した児童はアイス作りに意欲や興味を持って活動することができた。

この他にも、学習関係では定期的に磁石実験、ドライアイスの実験など化学や科学実験学習を取り入れるなどの特色ある活動も行った。



【氷の性質や温度の不思議】

【アイスボールリレーゲームの様子】



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

放課後子ども教室活動での製作やゲーム遊びを通じて、子どもたちが自ら考え各種ルールを決めて取り組んだり、関係者や地域の方々に挨拶や声かけを行ったり、自主的態度が養われている。

また、高学年の子どもたちが低学年の子どもたちのお世話をし、自主的にリーダーとなって活動する姿もみられ、その中で人との関わり方やコミュニケーション能力にも変化が見られるようになっている。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

学校との関わりについては、来館の遅い子どもたちや体調がすぐれない子どもについて、学校と情報を共有しながら対応したり、放課後子ども教室事業のお便りを配布してもらったりと、互いに連携を充実させている。

また、地域との関わりについては、地域のサポーターの方々の協力により、普段取り組むことのできないグラウンドゴルフや将棋などの体験が実施できたことで、教室がより充実し、子どもたちと地域の方々との交流の場が広がった。

さらには、公民館サークル側からのアプローチでの活動も実施し、その活動成果を公民館の学習発表会で一緒に発表する放課後子ども教室もあり、地域の方々の積極的な参画や事業の取り組みを地域の多くの方に発信することができた。

なお、各種事業に参加した地域の方々からは、顔見知りになったことで挨拶をしてくれたり、声をかけてくれたりするようになったとの声が聞かれるとともに、運営スタッフや地域の方々も学校や地域に関心を持つようになったとの声が聞かれた。

5 これからの教室運営の展望

子どもたちの安全・安心を第一に教室を開催することを基本とし、子どもたちや保護者のニーズを捉え、地域の方々の専門性を活用し地域ぐるみで子どもたちを育てていくことを考えていく。

また、指導者やサポーターのスキルアップにも努めるとともに、学校と地域との連携をさらに密にし、事業実施の充実安定を図る。

【問い合わせ先】

富谷町教育委員会教育部生涯学習課

住所：黒川郡富谷町一ノ関字髙合山6-8

TEL：(022)358-5400

FAX：(022)358-9159

E-mail：syogaigakusy@town.tomiya.miyagi.jp

1 大衡村の概要

大衡村は、宮城県のほぼ中央に位置し、南北に東北自動車道、国道4号、国道457号が縦貫し、仙台市までは南へ25km、大崎市古川までは北へ15kmの距離にある。

総面積の約35%を山地が占め、村の北西部一帯は陸上自衛隊王城寺原演習場として利用されている。

村内の工業団地には次々と工場が立地、平成22年に「共に育み 共に創り 共に生きる 愛と活力にあふれたまちづくり」を基本理念とした第5次大衡村総合計画を策定し、人と産業と自然と文化が調和し融合するまちづくりを進めている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	放課後子ども教室 「学び楽級」 (大衡小学校区)	大衡小学校 教室 多目的教室	100名	40日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 5名	宿題への取り組み プリント学習 工作、など	23年度

3 放課後子ども教室活動紹介

大衡小学校の放課後子ども教室は、コーディネーター1名、学習アドバイザー5名で運営しており、週1回、長期休業時は12日程度開催している。

宿題やプリントなどで学習を行っているほか、小学校で行っている「少年少女発明クラブ」と連携し、ペットボトルロケットづくりや野鳥観察、トヨタ東日本学園でからくり自動車づくりなどを行った。

また、大衡村を会場とした凧あげ大会の主催者である「仙台凧の会」の会員に指導してもらい、連凧を作り、凧あげ大会に参加した。



【学習にも真剣に取り組めます】



【からくり自動車づくり】



【凧あげ大会で連凧をあげました】

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

子ども教室がスタートして3年目、スタッフも子どもたちも教室の雰囲気、ペースにも慣れてより気軽に参加できるようになってきたと感じている。

活動の中心は自主学習となっているが、昨年度「教室が騒がしく、勉強に集中できない」との声が子どもたちから出たことがあり、今年度は、教室に来たら集中して学習に取り組むよう声掛けすることを、スタッフ間で共通理解した上で活動を進めてき

たところ教室は落ち着き、より集中して勉強に取り組む児童が多くなった。宿題が終わると課題プリントを要求し熱心に取り組めるようになった。また、普段生活を共にする支援員がスタッフとなっているため、気軽に話せる雰囲気があり、学級内では言えないようなこと、日頃思っていることなどを話してくれる児童もいる。

今年度は、月1回「発明クラブ」と連携しての活動があったことにより、それを楽しみにしながら普段は教室での学習に取り組むという、メリハリのある活動ができるようになった。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

学校の支援員がスタッフとして子ども教室に携わっているため、学校の先生との連携はスムーズに行えている。学習活動が中心となっているため、担任の先生に今、どんな学習をしているのかを確認し、復習ができるような課題を用意したり、あらかじめ参加児童の補強点を聞いて学習支援を行う体制をとっている。

また、先生方には子ども教室への参加を児童や保護者に呼びかけや、施設利用の調整を快く対応していただいたりしている。また、子ども教室で気になった児童の情報交換を行って対応を考えたりと連携体制をとっている。

地域や保護者との連携については今後の課題であるが、「発明クラブ」で地域の様々な分野の方に講師として児童と関わっていただき、交流が深まってきている。子どもたちも地域講師の方に親しみを込めて話しかけたり問いかけたりしながら、共に活動を楽しむ様子が多く見られるようになってきた。

保護者には月に1～2度ほど「放課後子ども教室だより」を発行し活動の様子などを周知してきた。今後は、保護者からの意見を聞くためのアンケート等を行っていききたい。

5 これからの教室運営の展望

「学習中心の子ども教室」が定着し、自分なりの活動目標を明確に持って参加する児童が多くなってきたと感じている。今年度「発明クラブ」と連携したことで「月1回のお楽しみイベント」が加わり、学習とお楽しみのバランスが取れ、メリハリのある活動が展開できたと思う。

普段の学習は低・中学年が大半を占めているが、発明クラブへの参加となると高学年の参加も増えている。参加人数が多いから大きな成果、というわけではないが、より多くの児童・保護者に子ども教室の活動を知ってもらい、「参加してみたい」と思う魅力ある活動を展開していきたい。

具体的には「発明クラブ」の活動以外に子ども教室スタッフ主催によるイベントを充実させていきたい。

発明クラブの講師からお借りした3DのDVDを鑑賞したり、児童が参加した凧あげ大会で入賞し、賞品としていただいたお米を使ってのおにぎり作りのイベントが好評だったため、今後もこのような「お楽しみイベント」を独自に企画し、その中に地域の方や保護者などを巻き込んでいければさらに活動が充実していくものと考えている。

子ども教室のスタッフの皆さんは普段から支援員として子どもたちと関わっており、子ども教室では細やかなところまで目が行き届く、温かな対応をしていただいている。

これからも、スタッフ間の活動に対する共通理解をより密にし、先生、保護者、地域の方々との連携充実を図りながら子どもたちが「来てやりがいのある」子ども教室づくりに取り組んでいきたい。

【問い合わせ先】

大衡村教育委員会教育学習課生涯学習班

住所：黒川郡大衡村大衡字平林62

TEL：(022)345-2197 FAX：(022)344-2597

E-mail：gakusyuu@village.ohira.miyagi.jp

1 大崎市の概要

平成 18 年 3 月 31 日、古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の 1 市 6 町が合併し、大崎市が誕生しました。

大崎市は宮城県の北西部に位置し、東西に約 80 km の長さを持ち、奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された、広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有する四季折々の食材と天然資源、そして地域文化の宝庫です。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	松山キッズひろば あそぼ!! (松山小学校区)	松山総合支所 分庁舎公民館等の 社会教育施設	47名	43日	コーディネーター 5名 教育活動サポーター 6名	自主学習, 自由遊び スポーツ体験 料理教室 郷土かるた会, など	21年度
2	いばのっ子クラブ (下伊場野小学校区)	下伊場野小学校 体育館 ミーティングルーム 下伊場野地区公民館	26名	200日	コーディネーター 3名 教育活動サポーター 5名	自主学習, 自由遊び スポーツ体験 工作教室, など	24年度
3	ひまわりっ子クラブ (三本木小学校区)	三本木小学校 体育館 ミーティングルーム	73名	35日	コーディネーター 3名 教育活動サポーター 14名	自主学習, 自由遊び スポーツ体験 親子料理教室, など	20年度

3 放課後子ども教室活動紹介

(1) 松山キッズひろば

自主学習, 自由遊び, スポーツ体験のほか, 地域のゲストティーチャーによる和太鼓体験, 料理教室, 郷土かるた会など, 地域の協力を得て活動している。また, 公共交通機関を利用し, 集団行動を目的とした郊外活動も行っている。

(2) いばのっ子クラブ

自主学習, 自由遊び, スポーツ体験の他, 週 1 回の季節に合わせた工作や昔遊び (こまやけん玉, 竹とんぼ, 紙ひこうき, 紙相撲等), ハロウィンパーティー, クリスマス会, お別れ会等を実施している。

(3) ひまわりっ子クラブ

放課後支援活動は 8 年目になりますが, 当初手本となるものがなく手探り状態で現在に至っています。小学校のミーティングルームを主な活動拠点とし, 週に 1 回月曜日の放課後に 2 時間程度の活動を基本とし, 自主学習, ニュースポーツ体験, 親子料理教室など, 地域のボランティアの方々の協力を得て運営している。



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

- ① 松山キッズひろば
時間の経過とともに、集団行動ができるようになってきている。また、異年齢間でもお互いに信頼しつつ遊ぶことができるようになってきている。
- ② いばのっ子クラブ
もともと小規模学校のため、全校児童での活動は多いものの、学校とは違って、わがままをいいながらも、のびのび活動している。学童保育の役割も担っているの
で、低学年の児童は、スタッフを信頼し安心して遊んでもらっている。
- ③ ひまわりっ子クラブ
時間の経過とともに、異年齢での集団行動ができるようになってきている。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

- ① 松山キッズひろば
学校や地域にも徐々に活動内容が浸透し、協力を得られるようになってきた。
- ② いばのっ子クラブ
開設時から学校・地域からは積極的にご理解・ご協力をいただいています。保護
者からも、家にいるとテレビやゲームばかりしているので、それ以外の活動ができ
てよい、という意見もあり、うれしく思っている。
- ③ ひまわりっ子クラブ
学校内の施設での活動なので、当然先生方との出会いも多くなります。年度計画
の策定時等には、学校側との綿密な打ち合わせも行っており、うまく運営できてい
る。今年度は、過去最高の児童が参加していますが、スタッフの方々の丁寧な対応
でいい雰囲気での活動ができています。

5 これからの教室運営の展望

- (1) 松山キッズひろば
現在は登録制をとって活動しているが、いずれは自由来館で全児童が利用できるよ
うに働きかけたい。
- (2) いばのっ子クラブ
学童保育の役割も担っているの
で、できる限り保護者の要望にこたえ、家に子ども
だけであることが少しでも減らせるように役立つ教室でありたいと思う。また、参加
している子どもたちが、大人になったとき「ここで育ってよかった」と思えるような、
温かくて楽しい教室にしていきたい。
- (3) ひまわりっ子クラブ
今年度は、スタッフの増員がうまくいきましたが、この事業では人員（スタッフ）
の確保が最大の課題だと思います。また、カリキュラムの充実・工夫は当然です。学
校内での活動は理想だと感じています。地域全体で児童を見守っているという事が当
たり前になるよう取り組みたい。

【問い合わせ先】

大崎市教育委員会生涯学習課

住所：大崎市岩出山字船場21

TEL：(0229) 72-5035 FAX：(0229) 72-4004

E-mail：ed-shogaku@city.osaki.miyagi.jp

1 色麻町の概要

「かっぱのふるさと」として有名な色麻町は、人口約7,400人の典型的な農業の町である。町の西部には奥羽山系に属する秀峰・船形山が山岳地帯を形成し、四季折々に美しい表情を見せてくれる。

平成26年4月に、現在ある色麻小学校・清水小学校が統合され、小中一貫校「色麻学園」が開校する。そこでは、5・6年生における英語科の新設や「色麻学」の導入といった特色ある教育を推進していく。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	しかまっ子クラブ 色麻教室 (色麻小学校区)	色麻小学校	自由参加型	198日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 3名	学び支援 交流活動 季節の行事	19年度
2	しかまっ子クラブ 清水教室 (清水小学校区)	清水小学校	自由参加型	198日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 5名	学び支援 交流活動 季節の行事	19年度

3 放課後子ども教室活動紹介

色麻町では平成19年度に「しかまっ子クラブ・色麻教室」と「しかまっ子クラブ・清水教室」を開設した。両教室とも月～金曜日の放課後に各学校の空き教室を利用して実施している。参加児童は全児童を対象としており、自由参加型の教室である。

「しかまっ子クラブ・色麻教室」では、火曜日と木曜日に学習日を設定し、宿題への取り組みを実施している。また、季節の行事や創作活動を行ったり、地域の方からその行事にちなんだお話を聞いたりしている。

「しかまっ子クラブ・清水教室」では、曜日を決めて勉強会を実施している。また、自主学習をしてから自由遊びをするなど、児童の自主性を促すようにしている。季節の行事では、七夕、ハロウィン、クリスマス会などを実施している。

両教室に通う児童の様子については、「しかまっ子居場所づくり実行委員会」を設置し、そこでコーディネーターや安全管理指導員と幼稚園の預かり保育の指導員や幼稚園・学校の担当者との間で情報交換並びに情報の共有化を図っている。指導員同士が絶えず連携を取り合うことで、子どもたちが安全に楽しく、放課後の活動ができるよう支援している。



【しかまっ子祭り：色麻教室】

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

年間を通して計画的にしかまっ子クラブを運営していくことで、以下のような点について子どもたちの変容が見られた。

- あいさつや返事、使った物の後片付けといった基本的な生活習慣について繰り返し指導することができたので、4月当初に比べてどの児童もきちんとできるようになってきている。
- 曜日によっては指導員に言われる前に自主的に学習を始めるなど、よりよい学習習慣が定着してきた。
- 季節の行事に進んで取り組み、準備や後片付けなども友達と協力して取り組む姿がたくさん見られた。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

学校・地域との関わり方については以下のような変容が見られた。

- 学校の空き教室を利用していることもあり、学校の先生方のしかまっ子クラブに対する理解が深まってきている。その結果、特に入学当初の1年生に対しては、担任の先生が放課後、子どもたちを教室まで誘導してくれたり、学校のおたよりの中にしかまっ子教室についてのお知らせを掲載してくれたり、大変協力的にしかまっ子クラブの活動に関わってくれている。
- 色麻町はバス通学の児童が多く、放課後にバスを待っている間にしかまっ子クラブを利用する児童が多くいる。指導員がついていることもあり、バス待ちの時間を安全に過ごさせることができるので、学校の先生方からはとても感謝されている。
- 地域のジュニア・リーダーが子どもたちと遊ぶなど、ジュニア・リーダーの活躍の場としての広がりが見られた。

5 これからの教室運営の展望

現在、しかまっ子クラブで課題となっていることは、学習や生活全般の指導はどうあるべきかということである。

学校と管轄が違おうといても、同じ敷地内で実施している以上、しかまっ子クラブを学校の教育課程の延長と見る保護者が多く見られ、学習の指導方法や、子ども同士のトラブルに対しても、学校の先生のような対応を求めてくる保護者もいる。それに対してどう対処すればいいのか実際に悩んでいる指導員もいる。

今後は、指導員の研修の機会を多く設定し、どのような対応をしていくことが子どもたちや保護者のためになるのかといった学習の場を設けていき、保護者の様々なニーズにも応えていけるよう取り組んでいきたいと考える。また、指導員だけではなく、保護者に対しても、しかまっ子クラブを見学する時間などを設け、子どもたちはどのような生活をしているのか、指導員はどのように声かけをしているのかなどを実際に見てもらうことも必要であろう。

そして、このような活動を通して、保護者と指導員が共通した考えのもとで子どもたちに接していき、よりよい「しかまっ子クラブ」を構築していくことが大切であると考えられる。

【問い合わせ先】

色麻町教育委員会社会教育課

住所：加美郡色麻町四竈字北谷地142番地

TEL：(0229)65-3110 FAX：(0229)65-3109

E-mail：shakai@town.shikama.miyagi.jp

1 加美町の概要

加美町では、少子化が進行し子どもの数が減少する一方で、核家族化や共稼ぎの家庭が増えていることや、下校時に家族がいても近所に友達がいないなどの理由で、保護者から「児童が放課後を過ごす場」の提供が求められている。この要望に応じて「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の二つの事業を活用して、放課後の児童の健全育成を目的に開催している。放課後児童クラブは7箇所、放課後子ども教室は1箇所で開催し、放課後子ども教室については、子どもたちに安全・安心な居場所を設け、地域住民の協力を得て、健やかに育まれる環境づくりを推進している。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	賀美石地区 放課後子ども教室 (賀美石小学校区)	賀美石小学校 体育館 ミーティングルーム	61名	230日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 3名	宿題等の学習活動 本読み 軽スポーツ	22年度

3 放課後子ども教室活動紹介（賀美石放課後子ども教室）

賀美石地区放課後子ども教室は、平日が午後2時から6時、長期休業日・振替休業日は午前8時30分から午後5時までで、年間約230日開催している。利用料金は無料とし、年間のスポーツ保険料とおやつ代等は実費としている。教室の運営スタッフについては、地元住民の方をお願いし、コーディネーター1人・教育活動サポーター3人の計4人で、常時2人体制で子どもたちを見守っている。活動内容については、平日が宿題等の学習活動・本読み・軽スポーツで、長期休業日には特別プログラムを数回実施している。特別プログラムは地域住民の協力を得て、食育料理教室やニュースポーツ大会・おはなし会などを開催している。



子ども教室の運営方法等を検討するために、運営委員会と地域実行委員会を組織しており、年2回会議を開催し、教室の運営方策や活動内容について検討していただいている。開催している対象小学校の全校児童は103名で、そのうち登録児童数が61名、毎日30名前後が参加している。対象学校の半数以上の児童が登録していることもあり、定期的に学校と話し合いを設け、情報を共有し、学校と子ども教室の連携が図られるようになってきている。

教室に参加している児童の中に支援児童がおり、保護者とは個別に話し合いを行い受け入れている。支援児童が特別プログラムに参加する場合には、保護者等の同伴をお願いしている。子ども教室の活動場所の、体育館と体育館内のミーティングルームに固定電話の設置がないため、子ども教室専用の携帯電話を設置し、保護者からの緊急な連絡が取れるように対応している。

平成22年度から放課後子ども教室を開催しているが、ボランティアをいただくスタッフが少なく、スタッフも高齢化になってきているため、今後の人材育成が重要課題になっている。

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

教室に参加したばかりの頃の児童は、誰もが元気に走り回り自由奔放な行動が多かったが、今では、教室に来るとすぐに宿題に取り組み、読書をするということが習慣になっている。低学年の児童で宿題で分からないところがあれば中学年が教えてあげ、低学年の児童同士でケンカをしていれば中・高学年の児童が止め、なぐさめてくれるということが当たり前のようにになっている。地域の方々が教室に来て一緒に活動を行うようになってからは、学校以外の場所でも教室に参加している児童が地域の方に挨拶をするようになったというお言葉をいただいている。

現代社会は、近所に遊ぶ友達や兄弟が少ない環境のため、「子ども教室」のような異年齢の児童同士が遊べる場所が必要になってきているのではないかと思う。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

子ども教室を実施している対象小学校の先生方の話では、子ども教室に参加している児童は、毎日教室へ行くことを楽しみにしており、教室のことについて学校で先生方に話しているようです。時々先生方が子ども教室に来て声をかけてくれるため、運営スタッフの方々も頼りになり心強いと言っている。学校と子ども教室の連携が図られるようになったと思う。

地域の方々の参加を得て各種事業を開催するようになってからは、地域の方々にも子ども教室の運営を少しずつではあるが理解していただけるようになったように思われる。その反面、保護者の方が地域の方と挨拶することがなく、毎日のお迎えの時でも、運営スタッフとの会話がないう状況なのがとても残念なことです。今後は子ども教室を通しての家庭教育・親教育が重要な課題となっている。

5 これからの教室運営の展望

現在の子ども教室の登録児童数は61名で、運営スタッフ常時2人体制の状況では十分な安全管理を図ることが困難な状況になっている。(参加人数の増加・支援児童の参加)そのため、平成26年度については平日3人体制で対応していく予定でいる。長期休業中の活動内容として、地域住民の参画を得て実施する事業を増やし、地域づくりの一助となるような事業の企画運営を図っていきたいと考えている。また、事業を実施する中で、運営スタッフ(ボランティア)の人材の発掘にも力を入れていきたいと考えている。

これからの子ども教室運営の展望については、加美町全体で児童の放課後対策として検討していくことが課題であり、関係各課と連携しながら事業運営を進めていくことが必要になってきている。現在、児童クラブの担当課等と定期的に会議を開催しており、今後は地域の実情に応じた放課後における児童支援の充実を図っていきたいと考えている。

【問い合わせ先】

加美町教育委員会生涯学習課

住所：加美郡加美町宮崎字屋敷一番52番地4

TEL：(0229) 69-5113 FAX：(2229) 69-6433

E-mail：syougaiyakusyu@town.kami.miyagi.jp

1 涌谷町の概要

涌谷町は、宮城県の県庁所在地である仙台市から北東へ車で約1時間の距離にあり、豊かな自然に恵まれた農業の盛んな町である。大崎平野の東に位置し、南を江合川、北を迫川、東を北上川に囲まれ、中央部には東西に篁岳山と加護坊山を結ぶ丘陵があり、町内を南北に分断している。人口は平成25年9月30日現在、17,372人、総面積は82.08平方キロメートル、小学校4校と中学校2校が設置されている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	涌一小 子どもっこクラブ (涌谷第一小学校区)	涌谷町 勤労福祉センター	21名	16日	コーディネーター 2名 教育活動推進員 2名 教育活動サポーター 6名	宿題への取り組み 自由遊び 体験活動	23年度
2	月将館 放課後子ども教室 (月将館小学校区)	月将館小学校 会議室 体育館	34名	29日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 6名	宿題への取り組み 自由遊び 体験活動	23年度
3	篁小図書っこクラブ (篁岳小学校区)	篁岳小学校 図書室	自由参加型	62日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 5名	読書活動 宿題への取り組み 室内遊び	23年度
4	里っこクラブ (小里小学校区)	小里小学校 図書室	自由参加型	30日	コーディネーター 2名 教育活動サポーター 5名	読書活動 宿題への取り組み 室内遊び	23年度

3 放課後子ども教室活動紹介

涌谷町では、町内4つの全小学校区で実施しており、取り組み内容については小学校区ごとに地域の特性を生かした活動を実施している。

涌谷第一小学校区では、小学校付近にある勤労福祉センターを会場に実施している。児童は登録制（終了時には保護者が迎えに来ることが登録条件）をとっている。5校時で放課となる児童は宿題などの学習活動を行った後、自由遊びを行う。6校時で放課となる児童は、16時までに集合し、早く来ていた児童と共に1時間程度様々な体験活動を行う。主な活動内容は、ゲーム遊び、読み聞かせ、その他季節に応じたイベントを実施している。

月将館小学校区では、小学校の空き教室と体育館を会場に実施している。涌谷第一小学校区同様、児童は登録制をとっており、空き教室にて学習活動を行った後、1時間程度様々な体験活動を行う。主な活動内容は、ゲーム遊び、学校周辺の史跡巡り、クッキング等を実施している。

篁岳小学校区では、小学校の図書室を会場に実施している。活動内容は前述の2つと異なり、スタッフは図書室にて宿題や室内遊びの見守り、本の貸出や返却の支援を行っている。また、年に数回程度、体育館でのゲーム遊びや絵手紙体験、バルーンアート等のイベントも実施している。

小里小学校区では、小学校の図書室を会場に、篁岳小学校区と同様に宿題や室内遊びの見守り、本の貸出や返却の支援を行っている。また、こちらも不定期に体験活動を実施している。春には花の苗植え、夏には小里地区周辺施設等を巡る「里っこ探検隊」や、親子での星空観察等を実施している。

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

教室運営スタッフの声として、異年齢集団での活動が上手くできているとの声があった。上級生が下級生の面倒を見る様子が多々見られ、グループでの活動も前以上にスムーズに行えているとのことだった。

学習活動においては、教室へ来たら宿題をする習慣が身についてきたのか、どの児童も率先して宿題へ取り組む姿が日常的になっている様子であるようだ。

また、放課後子ども教室で児童と関わることで、自治体での活動の際には顔見知りが増え、活動がしやすくなったとの声もあった。

その他、進んで挨拶をする児童が増えた、ルールや約束事なども少しずつ守れるようになってきたとの声もあった。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

教室運営スタッフの声として、校長先生をはじめ先生方の協力・理解が増え、楽しく活動できているとの声があった。校長先生が教室を覗きに来ると、児童たちもいつも以上にシャキッとし、活動もしやすくなったとのことだった。

その反面、先生方の理解が増え、協力をしてもらえる一方で、学校側への負担を心配する声も上がっているようだった。

5 これからの教室運営の展望

課題の一つ目として、事業の周知について。放課後子ども教室を開設して3年目となり、スタッフは児童の事を考え一生懸命に活動しているが、周囲への周知は十分であるとはいえない状態である。学校側との更なる情報交換、連携を望むスタッフも多く、学校側も含めた情報交換・活動報告の場を設置する必要がある。その一方で、学校管理下外でありながらの協力体制は学校側への負担を大きくしているのではないかとの意見も上がっており、慎重に取り組んで行く必要が考えられた。またスタッフの世代交代を視野に入れることを考えれば、地域への周知も必要となり、区長会などの場における事業説明などの周知活動の必要性も考えられた。

二つ目は、運営スタッフの発掘と育成についてである。現在のスタッフの大半は開設当初から関わっており、コーディネーターを中心に魅力的な事業を展開しているが、以前まで共に活動していたスタッフからは活動内容を考えることに負担を感じる、活動に毎回参加するのが難しい等の意見もあった。一つ目の課題で述べたとおり地域へ周知しての人材発掘は必須であるが、現行の内容のみにとらわれることのないよう、スタッフにとって無理のない活動を意識していく必要が感じられる。この事業はスタッフにとっても生きがいや生活に張り合いを感じるものとなっているようである。スキルアップ研修会や情報交換の場を設置し、児童と共にいる時間を作りたいというスタッフの思いを引き出すインセンティブを高めることも重要であると考えられた。

【問い合わせ先】

涌谷町教育委員会生涯学習課

住所：遠田郡涌谷町字下道69-1

TEL：(0229)43-3001 FAX：(0229)43-3536

E-mail：gr-gakushu@town.wakuya.miyagi.jp

1 美里町の概要

美里町は平成18年1月1日、遠田郡内の小牛田・南郷の2町が新設合併して生まれた町である。仙台市とは40Kmの距離にあり、東北本線、陸羽東線、石巻線が交差する交通の要衝となっている。奥羽山系を源とする鳴瀬川、江合川が町内を貫流し、この水利に恵まれた農業が町の基幹産業となっている。土地は平坦で、町の面積の約70%を水田や畑が占めており、宮城県の食糧基地として米や野菜はもちろん、果樹や施設園芸もたいへん盛んである。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	小牛田小ジョイキッズひろば (小牛田小学校区)	小牛田小学校	25名	20日	コーディネーター 2名 教育活動サポーター 4名	自由遊び	20年度
2	不動堂小ジョイキッズひろば (不動堂小学校区)	不動堂小学校	71名	20日	コーディネーター 2名 教育活動サポーター 7名	自由遊び	20年度
3	北浦小ジョイキッズひろば (北浦小学校区)	北浦小学校	64名	20日	コーディネーター 3名 教育活動サポーター 5名	自由遊び	20年度
4	中埜小ジョイキッズひろば (中埜小学校区)	中埜小学校	45名	20日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 4名	自由遊び	20年度
5	青生小ジョイキッズひろば (青生小学校区)	青生小学校	42名	20日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 4名	自由遊び	20年度
6	南郷小ジョイキッズひろば (南郷小学校区)	農村環境 改善センター	52名	30日	コーディネーター 2名 教育活動サポーター 5名	自由遊び	20年度

3 放課後子ども教室活動紹介（南郷小ジョイキッズひろば）

南郷地域では、合併前からの放課後子ども教室の前身である「生き生き子ども教室」という名称で親しまれている。町内6教室の内、ここ南郷小学区だけが町のコミュニティセンターを活動拠点としている。活動内容は「創作」「スポーツ」「料理」「伝統文化」「自由遊び」等と毎回テーマを設けており、参加児童全員でその日のテーマを体験した後、保護者が迎えに来るまで各々自由に遊ぶスタイルで定着している。また帰宅方法については、安全上の観点から、原則保護者の迎えとしている。



さつまいも苗の植え付け（5月下旬）
10月の収穫が楽しみ！！



ラグビー体験教室
2016年オリンピック 正式種目決定

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

子ども教室に参加している児童のうち、特に変化が顕著なのは低学年児童である。自分が何をしたいか、大人にどうして欲しいのかははっきり言えない子が、地域の大人達と顔を合わせて一緒に活動を継続していくうちに、しっかりと自己主張ができるようになっていく。学校生活や家庭生活以外の場面で、自分の主張を受け入れてもらった子どもは、表情にもはっきり見て取れるくらい満足感が窺える。このような小さな経験の積み重ねが自信をつけさせ、子どもの心を大きく育むのであろう。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

教育現場の学校に、町の社会教育という看板を掲げて入り込むということは、とても敷居が高く感じられ、また、学校側にしても大いに戸惑ったことであろう。想像に難くない。しかし最近では、学校側の協力と理解により、月曜日の放課後は子ども教室があることが当たり前の風景になりつつある。初め遠慮がちであった地域サポーターの方も、気軽に学校に出入りできるようになった。今なお、登下校中の不審者や連れ去り事件が後が絶たない世の中であり、外遊びがままならない子どもたちに、子ども教室の時間だけでも思いっきり遊ばせてあげたいという地域サポーターの思いが根底にある。また、家にいればゲーム機に依存しがちな子どもの遊びに不安を持つ保護者からも、ゲーム機から離れ、子ども同士が関わり合い、体をめいっぱい動かす遊びが望まれている。子ども教室は自由遊びが活動の中心であるが、時には昔ながらの遊びも取り入れて、子どもの興味関心が広がるような工夫をしている。

5 これからの教室運営の展望

美里町は平成20年4月から、全ての小学校区で放課後子ども教室推進事業を実施している。開設当初は全学年の登録があり、異年齢児童との交流ができた。しかしここ数年は、どの教室も高学年層の登録はほとんどない状況であり、1、2、3年の低学年層が中心である。遊びの興味の対象が低学年と高学年では異なるのが一つの要因と考えられ、子ども教室の活動プログラムはどちらかというとなら低学年層向きである。また、学年が上がるにつれ、委員会活動などで下校時間が遅くなることから、子ども教室に参加する時間が確保できないことも理由である。それらのことから、全学年対象という事業展開が難しくなっている。この事業を推進するためには「学校」「家庭」「地域」の協力が必要であるが、事業評価は高い反面「家庭」の協力がどの教室でも不足している現状がある。今後は保護者のニーズも踏まえつつ、この事業への参画を得られるような働きかけが必要と考えている。

【問い合わせ先】

美里町まちづくり推進課

住所：遠田郡美里町北浦字駒米13

TEL：(0229)33-2180 FAX：(0229)33-2160

E-mail：machizukuri@town.misato.miyagi.jp

1 登米市の概要

平成17年4月、9町が合併し登米市となった。西部が丘陵地帯、東北部が山間地帯でその間は広大で平坦肥沃な登米耕土を形成、県内有数の穀倉地帯となっている。

圏域のほぼ中央を貫流する迫川、夏川が圏域東側を流れる北上川へ旧北上川を介して合流し、登米耕土を潤している。また、白鳥、ガン等が飛来する伊豆沼・内沼、長沼並びに蕪栗沼、平筒沼があり、水の里としての様相を呈している。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	北方小放課後子ども教室 (北方小学校区)	北方小学校	38名	77日	コーディネーター 7名 教育活動サポーター 11名	自主学習、スポーツ 昔の遊びなどの体験	21年度
2	登米小放課後子ども教室 (登米小学校区)	登米児童館	55名	15日	教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 4名	児童館との共催事業 による体験活動など	21年度
3	米川小放課後子ども教室 (米川小学校区)	米川小学校	30名	200日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 4名	自主学習、自由遊び 制作活動	23年度
4	浅水小放課後子ども教室 (浅水小学校区)	浅水小学校	31名	200日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 6名	自主学習、自由遊び 農作業体験	21年度
5	豊里小放課後子ども教室 (豊里小学校区)	豊里小学校	43名	200日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 9名	自主学習、工作 町内の散策	22年度
6	米山東小放課後子ども教室 (米山東小学校区)	米山東小学校	39名	200日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 2名 教育活動サポーター 4名	自主学習、自由遊び 農業体験	22年度
7	石越小放課後子ども教室 (石越小学校区)	石越小学校	25名	200日	コーディネーター 1名 教育活動サポーター 6名	自主学習、体験活動 読書タイム	22年度
8	南方小放課後子ども教室 (南方小学校区)	南方小学校	37名	200日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 5名	自主学習、自由遊び 季節の行事	23年度
9	横山小放課後子ども教室 (横山小学校区)	横山小学校	20名	200日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 1名 教育活動サポーター 8名	自主学習、自由遊び 屋外でのスポーツ	23年度

3 放課後子ども教室活動紹介

市内9つの小学校区で活動を行っているが、ほとんどの教室が平日の放課後に開設していることもあり、放課後の児童の安全な居場所づくりに焦点をあて、活動を展開している。教室に来たら、まずは宿題や自主学習のプリントに一定の時間取り組み、それから自由遊びをすることが多い。保護者がスタッフとして参加している教室もあり、家庭と同じ様な生活を心がけているが、あいさつや教室での約束の徹底など、集団生活の規律も守るよう声掛けを行っている。

また、年間の行事では、地域の方の力を借りて、サツマイモ栽培など農業体験や折り紙教室、読みきかせ等を行っている教室も多く、地域と一体となって子どもを見守る体制ができつつある。季節ごとのお楽しみ会やスポーツ体験など、子どもたちが親睦を深める行事も展開している。



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

放課後子ども教室開設当初は、スタッフも子どもたちとの距離の取り方が分からず、何でもしてあげて、子どもたちに甘えが見られるようになってしまった。そのため、子どもたちが自主的に動くように見守りに重点を置いたり、教室での約束を決めたりして対応するようにしていったところ、態度はもちろんスタッフに対する言葉づかいも変わってきた。行事を通じて、学年を超えた子どもたちの縦のつながりもでき、互いの立場を考えて行動することもできるようになった。

ほとんどの教室で行っている宿題などへの支援も、スタッフから声掛けがなくても自主的に取り組む子どもが増えてきている。

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

はじめは、なかなか学校との連携が持てないでいたが、現在では、普段から子どもの欠席状況や健康状態の情報を学校とスタッフで共有できるようになっている。また、学校行事の予定や、下校時間の変更などの連絡はもちろん、定期的に打ち合わせを行ったり、避難訓練にスタッフが参加させてもらっている教室もある。

地域の方に農業体験のお世話をいただいたり、折り紙教室や読み聞かせなどの行事の際に講師等で協力をいただいている。また、保護者に向けて、親の会を組織し懇談会を行ったり、おたよりで教室の様子を伝えているが、その中で地域からの協力もお知らせし、地域と一体となって子どもを見守っていることを認識してもらっている。



5 これからの教室運営の展望

現在、放課後児童クラブとの連携を行っている教室が3か所あるが、子育て三法の施行に向け、さらに教室運営の方向性を検討する必要があると考える。まだ教室が開設されていない学校もある中で、児童クラブと子ども教室の双方を同じ場所で運営すべきか、別施設で運営する場合どのような連携が考えられるのか等、課題は多々ある。

また、教室の利用登録児童数も年々増加しており、現在の利用教室数とスタッフの数では運営が厳しくなっているため、学校との利用教室数の調整や運営スタッフの確保が課題となっている。さらに、スタッフの質の向上のため研修を行い、子どもたちと自信を持って向き合ってもらえる素地を作ることが必要と考える。

各町域の子ども教室の活動は活発であるが、教室間の運営の情報交換やスタッフの研修など横の連携ができておらず、今後の課題となっている。

【問い合わせ先】

登米市教育委員会生涯学習課

住所：登米市中田町上沼字西桜場18

TEL：(0220)34-2698

FAX：(0220)34-2504

E-mail：syogaigakusyu@city.tome.miyagi.jp

1 石巻市の概要

石巻市は、旧北上川の河口に位置する人口約15万人の風光明媚なまちである。江戸時代には、「奥州最大の米の集積港」として全国的に知られ、明治時代からは、金華山沖漁場を背景に漁業のまちとして栄えた。昭和時代には、新産業都市の指定を受けるなど工業都市としても発展を遂げてきた。しかし、東日本大震災における巨大な地震とそれに伴う大規模な津波によって、多くの犠牲者が出たのをはじめ、地域社会、地域経済が甚大な被害を受けた。現在、復興に向けた取組が各方面でなされているが、未だ不自由な生活を余儀なくされている人々も多い。震災により統廃合があったが、現在市内の小中学校数は39校、中学校数は20校である。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	和小っ子クラブ (和渚小学校区)	和渚老人憩いの家 和渚小学校	39名	約50日 毎週木曜日	コーディネーター 3名 教育活動推進員 8名 教育活動サポーター 7名 ボランティアスタッフ 21名	学習、昔の遊び スポーツ 伝統文化交流活動 体験活動	25年度

3 放課後子ども教室活動紹介（和小っ子クラブ）

石巻市では、今年度から初めて放課後子ども教室を開設することになった。対象を比較的震災の被害が少なかった内陸部の石巻市立和渚小学校区に選定し、4月から地域説明会を重ねてきた。スタッフの募集を呼びかけたところ、河南地域まちづくり懇談会和渚部会を母体とした地域ボランティアが、39名集まった。それぞれが、昔の遊びや地域の伝統文化、民話、手芸、工作、調理など特技をもち、子どもたちに教えたいという意欲をもった方々である。

また、参加児童については、和渚小学校1年生から5年生までの39名が登録し、平成25年6月に「和小っ子クラブ」として活動をスタートした。「和小っ子クラブ」は、毎週木曜日の放課後、学校に隣接する老人憩いの家を活動拠点として、主に以下の4つの活動を行っている。

- ①昔の遊び（竹とんぼ作り、凧作り、将棋など）
- ②スポーツ活動（ドッジボール、ゲートボール、ビニルバレーなど）
- ③伝統文化交流活動（農業体験、林業体験、しめなわ作り、灯籠作り、絵馬作りなど）
- ④体験活動（お菓子づくり、手芸、紙細工、陶芸、CDこま作りなど）

そのほか、全員が集合するまでの間は、宿題や自主学習などの学習活動も行っている。

ボランティアの方々は、ローテーションを組み、それぞれ活動のサポートにあたっている。地域の特色を生かした活動や、ボランティアの方々の特技を生かした活動など、ふだんの授業ではなかなか味わえない体験活動を、試行錯誤しながら展開しているところである。



4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

和 کوچک子クラブの子どもたちは、明るく素直で、活発な子どもが多い。学校での活動を終え、老人憩いの家に現れる子どもたちは、開設当初ははにかんでいたが、今は元気に「ただいま。」とあいさつをしながら入ってくる子が増えてきた。活動中は、縦割り班を編成し、上級生がリーダーシップをとりながら活動に取り組んでいる。そんな中で、「自分よりも下の子の面倒見がよくなった。思いやりの気持ちが育っている。」という声が地域ボランティアから聞かれている。また、学校からの感想では、農作業体験や昔の遊びなど地域の方とかわるメニューを子どもたちは喜んでおり、学校でも話題となっているとのことであった。多くのボランティアに見守られながら一人ひとりが貴重な体験をやり遂げさせてもらっていることによって、学習意欲も高まっているとのことであった。



(2) 学校・地域との関わり方の変容から

ボランティアの方々が、毎週木曜日、子どもたちのために活動内容を考え、準備に暇を惜しまない姿は本当に頭の下がる思いである。そのうえ、子どもたちと一緒に物を作ったり、遊んだりすることが楽しいと感じて参加してくださっている方が多い。参加児童は、もともと孫や近所の子どもたちなので、互いに知っている顔ではあるが、あらためて一緒に活動することで結びつきがより一層深まっているようである。



学校との連携については、普段は学校から離れた場所で活動しているが、活動内容によっては体育館やホールなど、学校から場所を借用することもある。また、学校行事と関連のある活動など学校と連携しながら行うこともある。今後も「和 کوچک子クラブ」が、地域と学校が連携していくためのきっかけになればと考える。

5 これからの教室運営の展望

活動が進むにつれ、縦割り班を編成してグループ活動をしたり、子どもたちが初めての会と終わりの会の進行を務めたりするなど、子どもたちに任せられるところは任せるようにしてきた。現在、地域ボランティアの方が中心となって活動内容を考え運営しているが、今後は子どもの主体的な活動も取り入れて活動の幅を広げていきたいと考える。それがひいては、ボランティアの方々の負担軽減にもつながると思われる。また、参加児童は1年生から5年生までと対象が幅広いので、どの学年の発達段階に合わせた活動内容にすればよいかボランティアの方々の悩みどころとなっている。どうしても中間層に合わせた活動内容となってしまうがちだが、上の学年にとっては物足りなさを感じ、下の学年にとってはできないものには飽きてしまうといった傾向が見られる。縦割り班をうまく活用し、上級生にリーダーとしての活躍の場を与えたり、下級生に多く補助役を付けたりするなど工夫が必要となってくるものと思われる。

他にも、ボランティアの高齢化や固定化、活動内容の考案、など今後の課題として残されていることもある。しかしながら、あるボランティアの方の言葉を借りれば、地域の子子どもたちが様々な活動を通し、心豊かで健やかに育っていくよう、そして「ふるさと」を忘れず大切に思えるよう「和 کوچک子クラブ」の運営にかかわっていきたい。

【問い合わせ先】

石巻市教育委員会生涯学習課

住所：石巻市穀町14番1号

TEL：(0225)21-6070 FAX：(0225)22-5160

E-mail：islstudy@city.ishinomaki.lg.jp

1 南三陸町の概要

南三陸町は人口約 15,000人、宮城県の北東部、本吉郡の南端に位置している。東は太平洋に面し、三方を標高 300～500m の山に囲まれており、海山が一体となった豊かな自然環境である。また、沿岸部はリアス式海岸特有の豊かな景観を有し、南三陸金華山国定公園の一角を形成している。東日本大震災により甚大な被害を受け、多くの住民が応急仮設住宅（町外含む）に住み、これからの町の復興を望んでいる。小中学校は、併設校を含め、すべてスクールバス通学となっている。

2 設置放課後子ども教室

No.	子ども教室名 (小学校区)	活動場所	登録児童 (人数)	開催日数 (年間)	スタッフ数	主な活動内容	開設年度 (平成)
1	戸倉っ子教室 (戸倉小学校区)	戸倉小学校 校庭、体育館 教室、プレイルーム	77名	200日	コーディネーター 1名 教育活動推進員 6名 教育活動サポーター 7名	外遊び、英会話 室内ゲーム スポンジボールテニス	25年度

3 放課後子ども教室活動紹介（戸倉っ子教室）



教育活動サポーターによる外遊び

南三陸町では、戸倉小学校において「戸倉っ子教室」と称し、放課後子ども教室事業を本年度より実施している。東日本大震災の影響により志津川小学校内に戸倉小学校が併設され全校児童77人は全員がスクールバスでの通学となり、下校バスが発車するまでの子どもたちの安心・安全な居場所として「戸倉っ子教室」が運営されている。戸倉小学校の全校児童が子ども教室に登録しているが、高学年の児童は、下校バス時刻や学校での放課後活動との兼ね合いでなかなか参加できないのが実情である。

震災で地域コミュニティが崩壊し地域の人材を確保することが困難な中でNPO法人の協力をいただきながら事業を推進していることが大きな特徴である。活動は、学校の授業日は毎日（行事や会議等の場合は除く）実施している。低学年を中心に、帰りの会終了後、校庭やプレイルームで思い思いに遊びを楽しんでいる。活動は基本的に、児童の自主性に任せ、活動支援員が見守っているが一緒に遊ぶことも多くある。週に一度、学習活動（英会話）、スポーツ活動（室内テニス）も、NPO団体の支援を受けて年間を通して実施している。子どもたちは町外からかけつけてくれる教育活動サポーター支援員との活動を楽しみにしている。また、支援活動の機会も利用し、読み聞かせ、バルーンづくり、人形劇、紙工作、冒険広場など様々な活動の機会も設け、併設している志津川小の児童との交流の機会も生まれている。



英語活動の様子

4 放課後子ども教室推進事業の成果

(1) 子どもたちの変容から

今の子どもたちに欠けていると言われる、異年齢集団での活動、自分の親以外の大人との触れ合い、自由に活動できる空間の確保という観点から、この放課後子ども教室の意義は大きいものがあると考えます。

毎日の活動なので、日々の学校生活の中に自然に組み込まれており、子どもたちも放課後を楽しみにしている。また、支援員と一緒に活動することで、家庭や教室とは違った感覚での大人との触れ合いを楽しみ、心のケアを含めた成長が感じられる。

震災後、遊ぶ場所や家庭環境も制限されている中、思いっきり体を動かすことや、自分の好きなことに取り組むといった子どもたちの基本的な欲求を満たしてくれる教室のおかげで、生き生きとした学校生活を送っている。

学校生活全般について子どもたちに活力が湧いてきていることを、スタッフはもとより教員・保護者も感じている。



スポンジボールテニスの様子

(2) 学校・地域との関わり方の変容から

本校の場合、震災の影響により隣接学区の小学校と併設されている。そのため、地域の人材・環境などを活用していくということが困難である。震災直後からNPO等の支援を受けて、放課後の子どもたちのケアを行ってきた経緯があり、現在の運営形態も2つのNPO団体の支援を受けて実施している。日々の活動には地域住民や学校関係者の協力を得ながら、本校保護者に教育活動推進員を委託している。保護者にとっては初めての教育支援の経験であるが、活動を重ねることで子どもたちとのかかわりや変容に喜びを感じ、アンケートの結果でも、子どもたちとのふれあいを含め、自らが地域や人と関わる機会が増えてきたと充実感を持っている。

また、教室運営にあたり地域の有識者、学校評議員を実行委員会に加え、外から見た子どもたちの姿についてのアドバイスをいたただき、地域ぐるみで育てる環境を更に整備していきたいと考えている。そのような中で、子どもたちが、今後の戸倉地区再生の活力につながっていくことを期待したい。

5 これからの教室運営の展望

本校は、平成27年度内に戸倉地区高台への校舎新築移転が決まっている。現在の併設校舎での活動内容の充実、支援の継続的な確保が課題である。NPOとの協力体制を保ちながら、より充実した活動になるように工夫していきたい。

また、戸倉地区に戻ったときの、地域の核となる小学校での放課後子ども教室の在り方について、保護者、地域のニーズを模索しながら、運営の形態について担当課との調整を進めながら、次年度の活動を継続していきたいと考えている。

【問い合わせ先】

南三陸町教育委員会生涯学習課

住所：本吉郡南三陸町志津川字沼田56-2

TEL：(0226)46-2639

FAX：(0226)46-2607

E-mail：gakusyuu@town.minamisannriku.miyagi.jp

5 放課後子ども教室スタッフアンケート調査結果

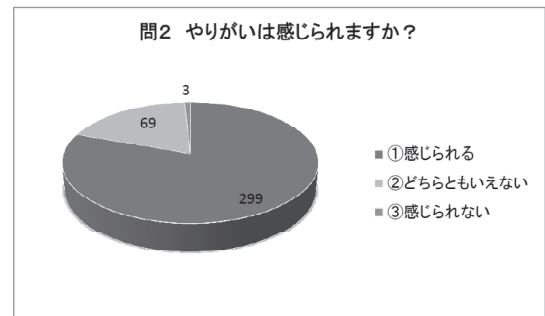
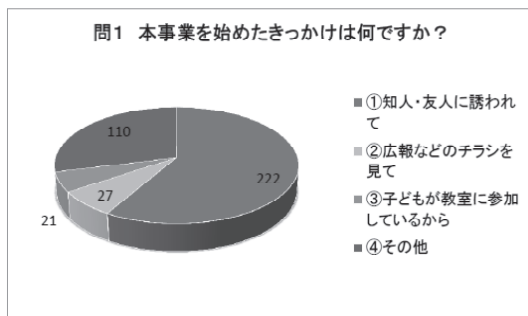
宮城県内59箇所の放課後子ども教室運営に直接関わっている教室スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーター、ボランティアスタッフ）にアンケート調査を実施しました。教室スタッフ382名の方からの協力をいただき、活動を通して、スタッフ自身の変化、子どもたちの変化などについて分析を行いました。

1 アンケート調査の実施

- (1) 調査名 「放課後子ども教室に関するアンケート調査（スタッフ用）」
 (2) 対象 放課後子ども教室運営に関わるスタッフ
 ◇コーディネーター ◇教育活動推進員
 ◇教育活動サポーター ◇ボランティアスタッフ
 (3) 実施期間 平成25年12月
 (4) 調査方法 質問紙による
 (5) 回答数 N=382

2 アンケート調査の概要

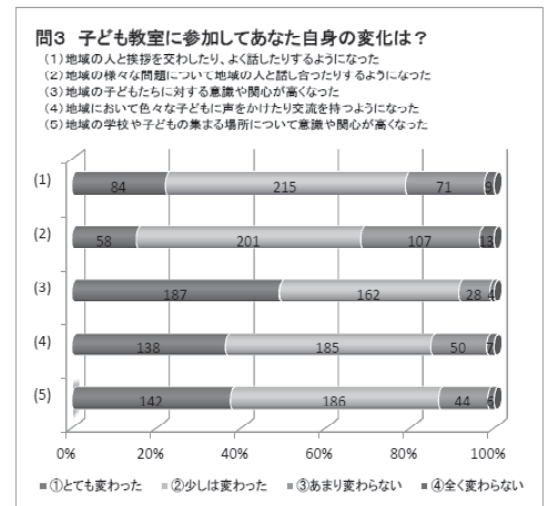
問1では、子ども教室に関わるきっかけについて尋ねました。他人から誘われたという人が58%で一番多く、地域の人との結びつきがスタッフとして協力するきっかけになった人が多いことがわかります。その他（29%）と答えた方の中には、民生児童委員などの地域の役職を持っていたことがきっかけとなっています。



問2では、スタッフとしての活動にやりがいを感じられるかを聞いてみました。やりがいを感じられると回答した方が78%と非常に高く、子どもたちと関わるのが楽しく、教室での活動が「生き甲斐」となっていると感じている方が多く見られます。

問3では、子ども教室にスタッフとして関わり、自分自身にどんな変容があったのかを5つの項目で振り返ってもらいました。「①とても変わった」、「②変わった」を合わせると、どの項目においても6割以上の結果となり、子ども教室での活動がスタッフにより変化をもたらしていることがわかります。特に、(3)(4)(5)の回答結果に見られるように、子どもや子どもの集まる場所について意識や関心が高まり、地域の子どもに対して進んで声をかけることが多くなったと回答した方が8割を超えています。

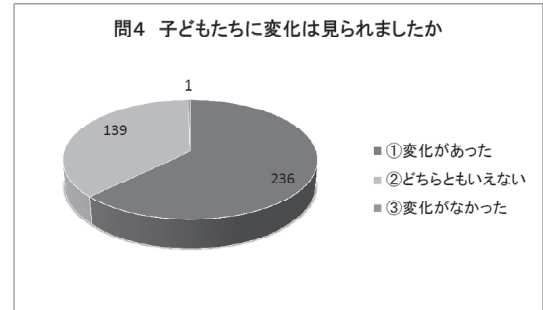
自由記述欄には、「子どもたち40名、ボランティ



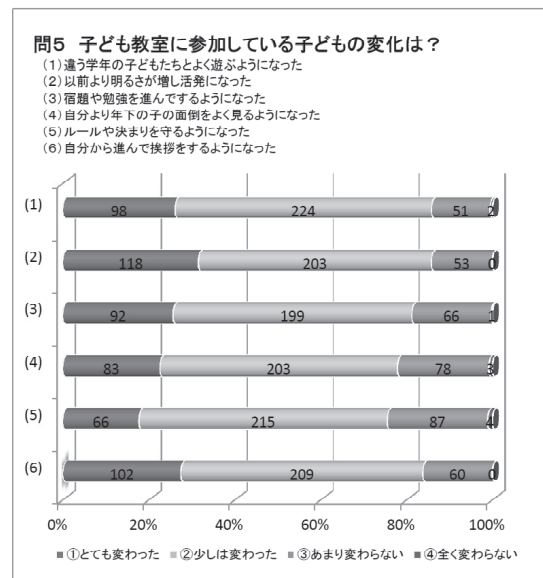
アと大きな家族のようです。」「地域の子どもたちが様々な活動を通し、心豊かで健やかに育っていくよう、そして『ふるさと』を忘れず大切に思えるように少しでもお手伝いができれば。」などの声が寄せられました。

以上のことから、放課後子ども教室での活動がスタッフに元気を与え、子どもたちを中心とした良好な人間関係の形成につながっていることがうかがえます。

問4では、放課後子ども教室に参加した子どもたちの変容について回答してもらいました。子どもたちに変化があったとの回答が62%で、何らかの変容をスタッフの方が感じています。



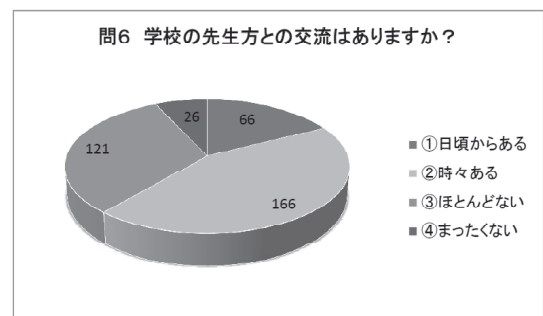
問5では、子どもたちの変容について6つの項目について回答していただきました。「①とても変わった」に「②少しは変わった」を加えると、どの項目も7割を超えています。「明るくなった」、「進んで挨拶をするようになった」については、「①とても変わった」と回答したスタッフが25%を超えています。



自由記載欄には、「通学路やスーパーなどで会うと『こんにちは』という児童の挨拶がうれしく感じられます。」や「教室以外で出会った時、子どもの方から声をかけられるようになった。」などの回答がありました。子ども教室に参加している子どもたちは、異年齢のスタッフ(大人)や子どもとの関わりから社会性が養われていることがうかがえます。

反面、ルールや決まりを守る姿勢については、「④全く変わらない」と回答したスタッフが20%を超えています。「なかなか言うことを聞かない」、「躰を厳しくした方が良い」などの回答が自由記載で見られました。学校や家庭において見ることのできない、子ども本来の姿が子ども教室では現れており、スタッフを困らせることも少なくはないようです。

問6では、学校との連携についての設問です。先生方との交流は、①・②を合わせると61%のスタッフが「ある」と回答しています。「学校の余裕教室で活動しているので、先生方が顔を出してくれるのが嬉しい。」「小学校のお便りに子ども教室の様子を紹介するコーナーを作ってもらい学校との連携を感じる。」と自由記載欄に回答がありました。

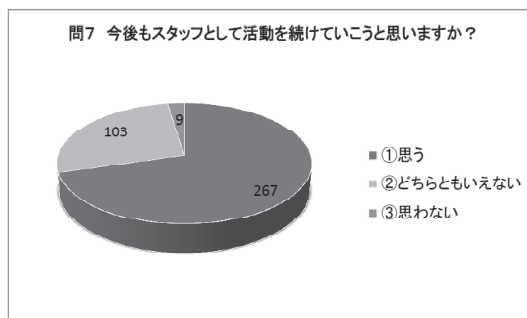


しかしながら、約4割のスタッフが「交流はない」と回答していることも見逃せないことです。「学校の先生方と連携がとれているか不安に思うときがある。」「学校の教職員との話し合いの場がほしい。」などの意見も自由記載で寄せられています。

子ども教室のスタッフは地域の方々であり、子どもと接することに様々な不安を抱えながら活動を行っています。学校の先生は児童の様子を熟知しています。スタッフの迷いや疑問に的確なアドバイスを出してくれることが、大変心強く感じるものです。

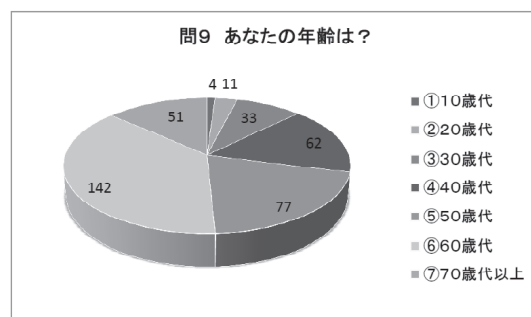
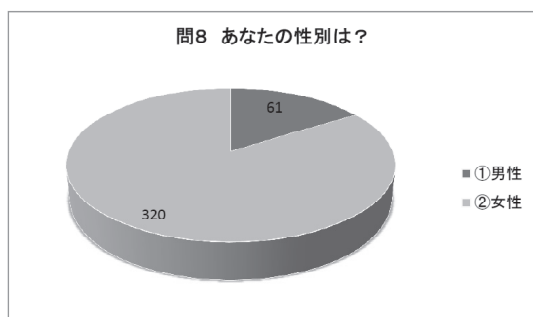
問7では、スタッフの活動意欲についての設問です。今後も放課後子ども教室に携わっていきたいとの回答が、70%の高い数値を示しています。問2の結果が示しているとおり、子ども教室での活動に大きなやりがいを感じている結果が、今後の活動意欲につながっています。

自由記述欄にも、「スタッフとして続けられる限りがんばってみようと思います。」や「やりがいの感じられる活動なので、地域の人に広めたい。」との意見が寄せられました。



問8・9では、スタッフの性別および年齢構成の基礎情報についてのものです。

スタッフの男女比は、おおよそ2：8で女性が多く割合を占めています。年代別構成については、60歳以上のスタッフが半数を超えています。子育てや仕事を退かれた高齢の方が多くスタッフとして活動に参加していることがわかります。



自由記述欄には、「男性の方がスタッフとしていたら、子どもたちの様子が変わるのではないか。」「孫のように思って遊んでくださる男性スタッフが教室では人気がある。」など、男性スタッフを切に望む声が寄せられています。

また、「平成12年から学校に色々な形で関わってきた。後継者がいないことが本当に残念。」「若い活動スタッフが体力的にも望ましいのではないか。」といった意見も多く寄せられました。スタッフの固定化・高齢化、人材の確保など、各市町村において今後の課題となっていることがうかがえます。

6 宮城県放課後子ども教室推進事業の成果と課題

子どもたちにとって「安心・安全な居場所」づくりを主たる目的に、平成19年度より本事業が開始された。本県においては、8市町23教室で実施した事業が、現在では19市町村59教室において事業が展開されている。

東日本大震災後の平成24年1月より「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（国委託事業）」を活用し、全額国庫負担で放課後子ども教室推進事業を行っている。この事業実施委託要綱の趣旨に「東日本大震災により被災した地域の自立的な復興に向けては、住民一人ひとりが主体的に参画する地域コミュニティ再生のための学び場づくりやコミュニケーションの場づくりを推進することが必要である」とある。各小学校区ごとに地域住民の参画を得て、家庭・地域・学校が協働して放課後子ども教室を運営していくことは、震災によって失われた地域コミュニティの再構築となり、復興を目指す本県にとって大変有効な事業といえる。

本事業の実施市町村においては、地域の教育資源（人・モノ・こと）を十分活用しながら事業を展開している。教室運営に携わるスタッフからも、「子ども教室での活動が毎回楽しみで、生き甲斐となっている」、「地域の子どもたちが可愛く、気になるようになった」などの声が聞かれるようになり、子どもに関わることで地域の教育力が育ってきていることが窺い知れる。また、子どもたちにとっても、異なる学年の子どもたちや地域の大人と関わることで、「あいさつを進んでするようになった」、「下の学年の子の面倒を見るようになった」など、良好な変化が現れているなど、本事業の成果が様々な場面で認められてきている。

本年度実施した市町村における成果と課題については以下の通りである。

【成果について】

① 子どもたちにとっての安心・安全な活動拠点（居場所）の整備

放課後子ども教室の認知度も高まり、登録人数や開催日数も増加傾向にある。教育活動サポーターの細やかな見守りや、教室独自に「活動の約束」を定めるなど安全面での配慮もなされ、児童のけがや事故の報告はほとんどない。事故発生時の対応についても学校の保健室等と連携を図れるよう体制が整っている。

何よりも、各教室において、子どもたちの明るい笑顔が多く見られるようになったことが大きな成果といえる。

② 子どもたちを育む、家庭・地域の教育力の醸成

地域住民の参画を得て、放課後子ども教室が運営されている。スタッフアンケートの結果にも見られるように、子どもと関わることで教室スタッフ（地域住民）の意識に大きな変容が見られた。「地域の子どもは地域で育てる」という気運が高まっている。

③ 各地域の特色ある活動プログラムの作成

本事業は7年目を迎えるが、事業開始当初は行政主導で活動プログラムが編成されるケースが多く見られた。しかし、現在では各市町村にコーディネーターが配置されたことにより、各地域の教育資源を有効に活用し、行政の下支えのもと特色ある活動プログラムがスタッフ（地域住民）の手により作成されるようになった。

【課題について】

① 放課後子ども教室スタッフの発掘・確保

現状を見ると、子ども教室スタッフの大半を女性が担っている。教室開設当初から関わっている方が多く年齢層も高くなっていることがアンケート結果からも読み取れる。「子どもたちの元気さに体力がついていかなくなった」、「男性の視点で子どもたちを見てほしい」などの声も多く聞かれる。

地域の人材発掘のために、「市町村広報誌」や「子ども教室だより」により、地域住民への広報活動を積極的に行っていく必要がある。また、NPOをはじめ地域の教育関係諸団体とのネットワークを拡充し、子どもたちが多くの大人と接する事ができる体制づくりを行うことが必要である。

② 放課後子ども教室スタッフへの研修の充実

教室運営に携わるスタッフは、少なからず何らかの不安を抱えながら子どもたちと接している。アンケートの自由記述にも「スタッフ同士の勉強会があればいいと思います」、「他の教室のスタッフと話し合う機会がほしい」などの意見が多く寄せられた。

子ども教室スタッフを対象にした研修会を、各市町村さらには、各地域ごとに研修の機会を設定していくことが必要である。また、互いに他の教室での活動を参観し合うこともスタッフの資質向上に有効な手段といえる。

③ 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）との連携

「放課後子どもプラン」のもと、放課後児童クラブと一体的あるいは連携して事業を推進することが求められているが、2つの事業は、趣旨、対象児童、開催日数等が異なり、連携が進んでいないのが現状である。

県レベルでの庁内関係者等による連絡調整会議を開催することで、両事業の連携と協力を図り、効果的な事業運営に努めながら総合的な放課後対策事業のあり方を検討していく必要がある。市町村レベルでは、指導者間で情報交換を図り、お互いの活動について内容やねらいを理解するとともに、役割を明確にして連携できる部分から取り組んでいくことが大切である。

【宮城県放課後子ども教室推進事業の今後の展望】

本事業が開始され7年目を迎え、各市町村において放課後子ども教室推進事業が各地域に定着した事業となっている。教室運営に尽力されているコーディネーターをはじめとするスタッフが、日頃抱えている悩みや問題の一部が、今回のアンケート調査により傾向として現れた。地域によって実態は様々であるが、アンケートによって見えてきた傾向をもとに、実施市町村を訪問し、円滑な事業運営について指導・助言を行い、教室運営に活かすよう支援していく。

アンケートの自由記述欄に“地域の子どもは地域で守る・育てる”との記載あった。県内全域に本事業を拡充し、「放課後の子どもたちの安心・安全な居場所」また、「子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境」づくりに、家庭・地域・学校が力を合わせ、協働して取り組んでいくよう本事業の推進を図っていく。

7 資料編

平成25年度

宮城県教育委員会主催

放課後子ども教室関連研修会

◇宮城県協働教育コーディネーター養成研修会

◇宮城県放課後子ども教室指導者等研修会

平成25年度 宮城県協働教育コーディネーター養成研修会

日 時：平成25年6月5日（水）10：10～16：00 宮城県庁2階講堂
平成25年6月6日（木）10：10～16：00 石巻市桃生公民館

参 加 者

場 所	区 分	行政関係	地域コーディネーター	教職員	合 計
宮城県庁2階講堂	大河原教育事務所管内	13名	2名	9名	24名
	仙台教育事務所管内	9名	19名	13名	41名
	北部教育事務所管内	4名	0名	7名	11名
	北部栗原地域事務所管内	3名	1名	6名	10名
石巻市桃生公民館	東部教育事務所管内	6名	0名	27名	33名
	東部登米地域事務所管内	3名	8名	11名	22名
	南三陸教育事務所管内	4名	4名	4名	12名
	合 計	42名	34名	77名	153名

県庁2階講堂 6月5日（水）

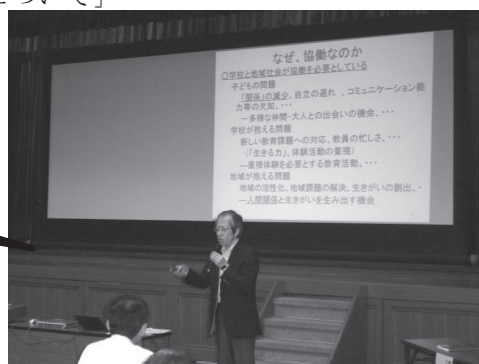
- 1 開 会
- 2 開会のあいさつ（宮城県教育庁生涯学習課長 三浦 正之）
- 3 講 義

【演題】「協働教育推進のためのコーディネーターの役割について」

【講師】東北学院大学教養学部 教授 水谷 修 氏

- ①協働の根拠
- ②宮城の協働教育の展開
- ③なぜ、協働なのか
- ④連携を可能にする背景
- ⑤学校支援活動を例に
〈子どもたち〉〈学校〉に何がもたらされるのか
- ⑥学校支援活動を例に
〈地域の大人〉に何がもたらされるのか
- ⑦学校支援活動を例に
〈地域〉に何がもたらされるのか
- ⑧協働のあり方：子どもをどう見るか
- ⑨コーディネートとコーディネーター
- ⑩コーディネート
- ⑪コーディネートの5原則
- ⑫協働のポイント
- ⑬ボランティアへの支援
- ⑭協働教育のおもしろさ

協働教育とは！
コーディネーターとは！
熱く語る水谷先生！



真剣に講演に
耳を傾ける
受講者の皆さん

4 実践事例発表と演習

柴田町、山元町の2町から実践事例発表をしていただき、その後、水谷先生のコーディネートで演習を行いました。演習では、6名の小グループに分かれ、様々な立場の人と意見交換がなされ、有意義なものとなりました。

【演習①】各町の事例発表に対して、もっと聞いてみたいことをグループで1つ挙げる。

→ 事例発表者に質問に答えていただく。

【演習②】各町の実践が上手くいっているポイントは何かをグループごと探り1つ挙げる。

→ 事例発表者にコメントをいただく。

コーディネーター：東北学院大 水谷教授



【実践事例発表】柴田町教育委員会生涯学習課
社会教育主事 後藤 忠宏 氏



【実践事例発表】山元町協働教育コーディネーター
萱場 裕子 氏, 荻原 友美 氏

演習①では、各班から「ボランティアリストの作成方法は?」「子ども会活動の活性化策は?」「事業を始めるに当たって心がけていることは?」「講師等への謝金の出所は?」「コーディネーターの選出方法は?」等の質問が出てきました。

演習②においては、各町の取組が上手くいってるポイントとして、「充実したスタッフとエネルギーを感じた」「無理せず継続していることが成功の秘訣」「自分の住む町への愛情を感じた」「何よりもスタッフのチームワークがとれている」などの賛辞が多数挙げられました。



各班から積極的に意見が出されました。
どの班も真剣に語り合っていました。

参加者からの声

◇柴田町の発表の中の情報の共有化については大賛成です。先例に学び、それを自分の市や町に合うようにアレンジ活用させていただくことは、限られた時間内で仕事をしていく上で助かります。(行政関係者)

◇もっと伺いたいところ、すばらしいところをグループで話し合ったところ、同じテーマはなく大変参考になりました。(地域コーディネーター)

◇活性化した取組の理由がよく分かるようなすばらしい実践を発表していただきました。すぐにでも参考にして取り組みたいなと思えたことが今日の収穫です。(学校教職員)

◇実践事例発表が大変すばらしかった。具体的で今後の参考になりました。今日はこのようなお話を伺うことが目的だったので大変有意義であった。(学校教職員)

- 4 「みやぎ教育応援団」について
- 5 閉会のあいさつ

教育庁生涯学習課協働教育班 狩野 秀之
教育庁生涯学習課協働教育班長 佐々木 邦治

石巻市桃生公民館 6月6日(木)

- 1 開 会
- 2 開会のあいさつ (宮城県教育庁生涯学習課社会教育専門監 佐藤 新一)
- 3 講 義

【演題】「協働教育推進のためのコーディネーターの役割について」

【講師】青森中央学院大学経営法学部 教授 高橋 興 氏

- (1) 協働教育は、今や後退できない大きな流れ
 - ①近年における地域と教育の関わり
 - ②「協働教育(地域一体)」が求められる主な背景
- (2) 「要」たるコーディネーターの主な役割
- (3) コーディネーターが役割を果たす環境の整備と課題
 - ①コーディネーターが求められることと今後の課題
 - ②学校(教職員)が求められることと課題
 - ③市町村教委職員等が求められる役割とその課題

教育行政の歴史を絡め
協働教育の必要性など
お話しいただきました



それぞれの立場でどんな
働きをするのか考えながら
聞き入っていました。



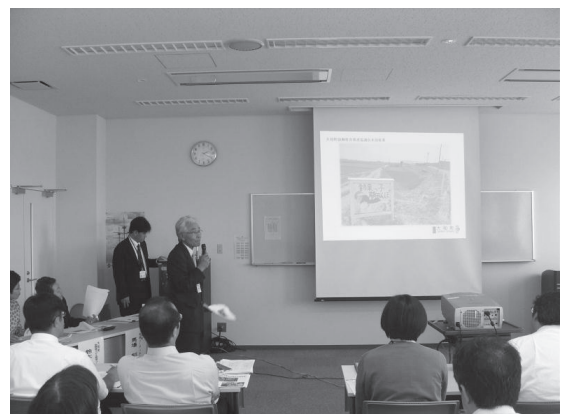
4 実践事例発表と演習

東松島市、大和町からそれぞれ実践事例発表をしていただきました。具体的な取組事例が紹介され、参加者からは「すごく参考になった」「自分の町での活動に参考にしたい」などの声が寄せられました。

事例発表の後、前日の県庁会場と同じ要領で演習を行いました。時間の都合もあり十分な話し合いができなくて残念でしたが、参加者の皆さんは、和気あいあいとした雰囲気の中、真剣に演習に取り組んでいました。



【実践事例発表】東松島市教育委員会
社会教育主事 瀝美 眞佐男 氏



【実践事例発表】大和町協働教育推進本部事業
地域コーディネーター 高橋 春男 氏
馬場 郁子 氏
放課後子ども教室“わいわい” 小野 っ子
コーディネーター 鈴木由紀子 氏

参加者からの声

◇事例発表については地域の実態に合わせての現状の報告は、実際に温かみのある子ども達の様子が見られました。また、これからよい方向で行って行くためにも、組織や行事を整え、学校の要望をつかみ、地域ボランティアに伝え、児童・生徒に返していけるようこれから頑張ります。
(行政関係者)

◇高橋先生の話がわかりやすかった。学校だけとか行政の立場からとは違って地域全体で結びつけて1つのコミュニティ再生事業が展開されていくことで持続可能な地域社会が構築されていくと思いました。

◇演習では他地区の先生方や地域コーディネーターの方々とお話ができ、色々な情報を知り勉強になりました。
(地域コーディネーター)

◇石巻市は地域コーディネーターが居ないので大和町、登米市、気仙沼市はうらやましい限りであった。しかし、何とか地域の方々の中からコーディネーターを発掘し、ともに子どもたちを育てていきたいと強く思った。
(学校教職員)

◇事例発表を聞き、子どもたちの育成に向けて様々な取組がなされている事を知りました。自分たちの市(地区)でもさらに取組が盛り上がることを期待しますが、そのために「自分がどうしていけばよいか？」という点がいつも疑問に残ります。情報交換の時間をもっととる必要があると反省させられました。
(学校教職員)



- 4 「みやぎ教育応援団」について 教育庁生涯学習課協働教育班 狩野 秀之
- 5 閉会のあいさつ 教育庁生涯学習課協働教育班長 佐々木 邦治

平成25年度 宮城県協働教育コーディネーター養成研修会

日時：平成25年8月19日（月）13：15～16：00 宮城県庁2階講堂
平成25年8月20日（火） 9：15～12：00 石巻市桃生公民館

【参加者内訳】

場 所	区 分	行政職員	地域コーディネーター	教職員	合 計
宮城県庁2階講堂	大河原教育事務所管内	13	2	12	27名
	仙台教育事務所管内	12	19	12	43名
	北部教育事務所管内	5	0	7	12名
	北部栗原地域事務所管内	2	1	6	9名
石巻市桃生公民館	東部教育事務所管内	6	0	41	47名
	東部登米地域事務所管内	3	9	12	24名
	南三陸教育事務所管内	5	4	4	13名
	合 計	46	35	94	175名

6月の第1回研修会に続き、8月19日（月）【県庁会場】、20日（火）【桃生会場】で2回目の研修会が行われました。2会場で175名の参加者があり、廣瀬隆人先生（宇都宮大学教授）のコーディネートで演習が行われました。

家庭、学校、地域をつなぐコーディネートの実際

宇都宮大学教授 地域連携教育研究センター（CERCE）

廣瀬 隆人（ひろせ・たかひと）先生

【演習の流れ】

班編成については、地域コーディネーター1人を学校教員及び行政関係者6～7名で囲むような形で編成された。

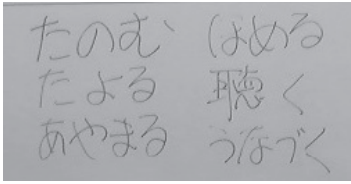
まず、1人が自己紹介をし、その自己紹介に対して同じ班の班員が全員で30秒ずつ褒めるという演習でスタートした。褒められることで気持ちが良くなり、参加者の表情が緊張から和やかなものへと変わっていった。

次の演習は、各班の地域コーディネーターが日頃の活動の中で抱えている課題や、学校とボランティアさんの狭間で抱えている誤解などについて、5分間しゃべり続ける。

その間他の班員は、黙ってうなづくといった演習であった。5分間という時間では足りないくらい地域コーディネーターの方々は様々なことを抱えているようであった。



続いて、地域コーディネーターに対して、教職員・行政の立場から課題や誤解を解消してあげる話をするといった内容であった。この頃になると、互いの立場を理解し、時間を忘れ夢中で語り合う様子が見られた。



6つのポイント(書 廣瀬先生)

一連の演習の後、廣瀬先生よりまとめのお話をいただいた。まず、コーディネートの理論は、難しいことを語るより6つのポイントをうまく活用することと話された。「たのむ」「たよる」「あやまる」「よめる」「聴く」「うなづく」この6つを人と接する際に意識していけば、良好な人間関係を築くことができ、自然に「この次一緒に〇〇しようね」と発展するはず。それが協働の基本であると熱く語っていただいた。

最後に、映像資料「日本で一番大切にしたい会社」や新聞記事「私の視点」,「石巻尋常小学校当校教員注意要綱」を活用し問題提起していただき、受講生は各々考えながら真剣に講話に聞き入っていた。

なんとと言っても廣瀬先生のエネルギッシュな語り口、巧みな話術と受講生の心をつかむ話に圧倒されながら、あっという間に予定の3時間が経過した。



【受講生の声】

- 以前、社会教育主事講習の時に廣瀬先生の講義を受けてとても印象に残っていた。今回も「やっぱりそれでいいんだ！」と感ずることができ、明日から頑張れそうに思う。(行政関係者)
- 廣瀬先生のエネルギッシュな演習の進め方に眠気も覚めました。「日本で一番大切にしたい会社」の本のお話は感動します。いろいろ勉強になりました。(地域コーディネーター)
- 人を褒めることは不得意ではなかったが、逆に褒められることが照れくさいと感じた。全く知らない方々なのに気持ちよく話すこともでき、分からないことも聴いて教えていただくことができた。(地域コーディネーター)
- とてもためになりました。「私の視点」の新聞記事の感想を話し合うところでは、自分の中の「教師中心主義」「上から目線」を深く反省させられました。全く持って恥ずかしい限りです。(教職員)
- いい人間関係をつくるポイントを学ぶことができた。実際に演習に参加してみると人間関係がまず第1歩であることが実感できた。(教職員)
- 具体的でわかりやすい演習は素晴らしいと実感できた。褒める→相手を認める、実際に認められることになってうれしかった。今後、褒める、聴く、頷く、地域の方々との接し方でも気をつけていきたい。(行政関係者)
- はじめ、コーディネーター1人にさせられ……。不安でしたがとても良い演習で心がスッキリ!! しました。先生のわかりやすいお話やパワーを持ち帰り、明日から頑張っていこうと思いました。(地域コーディネーター)
- 協働教育でまず大切なことは、その人と良質な人間関係を築くことであると知った。褒めていくこと。共通点を持つこと。(教職員)
- 同グループの人たちと最初に十分話す時間があつたので、その後の話し合い活動がとてもやりやすかった。コーディネートに必要な6つの事柄を身をもって体験することができた。(教職員)

平成25年度宮城県放課後子ども教室指導者等研修会

開催日：平成25年1月14日（木）

会 場：宮城スタジアム(インタビュールーム)

1 研修会の目的

宮城県放課後子ども教室に対する理解と放課後子ども教室に関わる指導者の資質向上を図るとともに、放課後子ども教室に関わる関係者等の情報交換・情報共有を図ることで、放課後における児童の健全育成を推進することを目的とする。

2 参加者

役 職 名	参加人数
コーディネーター	29人
教育活動推進員（学習アドバイザー）	9人
教育活動サポーター（安全管理員）	28人
教室活動スタッフ（ボランティアスタッフ等）	11人
行政職員	21人
計	98人



定員100名の会場が一杯になりました。
【インタビュールーム内】

3 内容

【講演】演題：「子ども・地域を活かす放課後子ども教室の運営」
講師：千葉大学名誉教授 明石要一氏

千葉大学名誉教授の明石先生をお迎えして「子ども・地域を活かす放課後子ども教室の運営」と題して講演会を行いました。先生の講演は、現代の子どもたちの特性を的確に捉え、受講者にとって親しみやすく大変分かりやすいものでした。時には「笑い」の要素を含めながらの講話で、会場内は常に和やかな雰囲気が漂っていた90分間でした。

講演の端々から、

- ① 放課後子ども教室を子どもたちの「赤ちょうちん」に。
- ② 本来の「ままごと」は、切ったり調理したりすることだが、最近は配膳遊びになっている。
- ③ 昔はたくさんいた「従兄弟」が現在ではほとんどいなくなった。従兄弟は人生で最初のライバルであり競争心を形成するもの。
- ④ 小学校3・4年生の遊びが消えた。体験にはゴールデンエイジがある。体験からより多くのことを学習できるのは小学校4年生まで。
- ⑤ 子ども教室で心がけてほしいことは、「今を生きる」こと。小学校2・3年生は「遊びほめる」事も大切なこと。

など、示唆に富んだお話をいただきました。

先生のお話から受講者の皆さんはたくさんの方に気づかされ、考えさせられたことと思います。放課後子ども教室が「安心な居場所」、「実体験の場所」、「人間関係（社会性）を養う場所」、さらには、「楽しい場所」でなければならないことを、明石先生の講話から改めて考えさせられた受講者も多くいたことでしょう。



明石先生のユーモラスな語り口に、受講者は釘付けになりました。

【情報交換会】

講演終了後、8つのグループに分かれ情報交換会を行いました。日頃、教室運営についての悩みや、成功例、失敗例など自由に話し合ってもらいました。終了予定の時間が過ぎても熱心に話し込んでいるグループもありました。



情報交換会の様子



～研修に参加しての感想～

- 大変楽しく受講できました。ガリ勉じゃない人が成功するに“拍手”。
- 子ども教室がこれから子どもたちを育てる大事な場所だと痛感しました。公園にいるうるさいお婆さんのイメージで見守っていましたが、見守るだけではダメなんだと思いました。ただ、私たちが小さい時に体験したことを子どもたちに教えてあげればいいんですね。
- 今の子どもたちについて具体的事例をたくさんお話しいただき、その現状にどう対応していけば良いのかということまで示唆をいただきました。今後の運営に活かしていきたいと思います。
- 明石先生のお話は活動スタッフとしてはもちろん、親として、地域に関わるべき人間としてとても興味深く楽しいお話ばかりでした。講演を聞いて本当に良かったです。たくさんおもしろいヒントが詰まっていたので、早速子どもたちに伝えたり活用したいことがあります。
- とてもたのしいお話でした。自分たちのしていることが子どもにとって大切な役割を担っていることを改めて感じました。やりがいも感じます。自分なりに勉強したり、工夫をしながら子どもたちと楽しくやっていきたいと思いました。興味深いお話をありがとうございました。
- まさに社会教育一筋！！，という感じでとても興味をそそられるとても楽しい時間でした。子どもたちの「赤ちょうちん」の場を大切にして子どもたちを見守っていきたいです。

平成25年度 宮城県放課後子ども教室推進事業実践事例集

発行日 : 平成26年3月31日

担当 : 宮城県教育庁生涯学習課協働教育班

住所 : ㊦980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

電話 : (022) 211-3690

FAX : (022) 211-3697

みやぎの協働教育・教育応援団ホームページへのアクセスは下記から

URL : <http://www.pref.miyagi.jp/site/kyodo/>



再生紙を使用しております。
この印刷物は500部作成し、1部
当たりの印刷単価は145円です。